

第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(59)

(平成30年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5 白楽コミュニティプラザ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあビル1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鶴養医院	南区吉野町3-7-2	334-8753
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
あずま医院	南区清水ヶ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30 サンライズ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷町866	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
大塚クリニック	旭区市沢町995-11 田口ビル1F	355-5377
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1 大倉山ハイム1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200 菊名レジデンスiapラザ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームストッププラザ十日市場西館101	989-6388
西川内科・胃腸科	青葉区あざみ野1-26-6	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
清水内科医院	青葉区青葉台1-28-2	981-7231
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45 沖商事ビル102	941-0082
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルデセゾン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ 1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(94)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
宮川医院	鶴見区北寺尾6-7-19	585-5505
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央3-19-11 コロファン横浜鶴見1F	506-3657
はぐ組こどもクリニック	鶴見区矢向5-6-22 飯塚眼科ビル101	717-7220
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4 オルトヨコハマビジネスセンター1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イーストアーケビル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
誠友医院	中区山下町113-4-3F	680-1283
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
ゆいこどもクリニック	南区弘明寺町144-1 水谷ビル2F 203号室	730-4152
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653

医療機関名	所在地	電話番号
宮地小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
相原アレルギー科・小児科クリニック	南区高根町3-17 スーク大通り公園参番館201号	261-0737
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 カミオ404-2	882-0810
星川小児クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル4F	336-2260
おざき小児科	保土ヶ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ヶ谷区岩間町1-4-1	331-2478
横山医院	保土ヶ谷区峰岡町2-118	331-3296
北原医院	保土ヶ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
おじま小児科	旭区二俣川2-58 大洋ビル2F	361-0212
サンクリニック小児科	旭区柏町127 相鉄南万騎が原第4ビル102	366-6821
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
小林小児科医院	旭区二俣川1-65	361-6116
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区下町8-16 1F	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野第2ビル2F	785-1152
かわなこどもクリニック	金沢区瀬戸19-14 金沢八景金井ビル3F	350-6277
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区新羽町2080-1 メディカルモールプラザ2F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22 ナビウス大倉山1F	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3 ダイアパレス鴨居1F	933-0061
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山町750番地1	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
ぽっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
松岡医院	青葉区しらとり台20-13	981-6093
あざがみクリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092

医療機関名	所在地	電話番号
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 ドムス有本101	901-6870
はなわ小児科内科クリニック	青葉区藤が丘1-28-3 ウイスタリア28-2F	972-1515
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノーブル茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
サウスウッドこどもクリニック	都筑区茅ヶ崎中央6-1 サウスウッド3F	942-7700
キッズクリニック鴨居	都筑区池辺町4035-1 ららぽーと横浜1101-6	929-0085
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
清田小児科医院	戸塚区戸塚町1505-3	861-3015
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2353
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
海のこどもクリニック	戸塚区川上町91-1 モレ東戸塚3F	390-0841
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA102	869-0311
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
ふくだ小児クリニック	泉区上飯田町938-1 いずみ中央クリニックビル3F	805-1020
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 サニーハイツ三ツ境1F	360-6080
清水小児科	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルビル内	360-9191
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点(22)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
豊岡アイクリニック	鶴見区寺谷1-3-2 山田メディカルビル2F	571-5861
矢島眼科医院	神奈川区片倉5-1-1 ARビル3F	482-1950
まつい眼科医院	西区戸部本町51-10	322-6249
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ストーキングビル秋山1F	260-6726
池袋眼科医院	港南区上大岡西1-18-5 ミオカM202	842-0380
和田町眼科クリニック	保土ヶ谷区和田1-13-21 工藤ビル2F	337-2823
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-38 FSビル2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ウィンダムビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 アピタ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
木崎眼科	青葉区青葉台2-9-10 第3フジモビル2F	985-3719
たちはら眼科クリニック	都筑区北山田1-9-3 EKINIWA KITAYAMATA 1F	595-2110
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
とつか眼科	戸塚区戸塚町16-5 ARKビル3F	861-6620
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 相鉄ライフビル2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

性感染症定点(29)

医療機関名	所在地	電話番号
さなだ医院	鶴見区鶴見中央4-2-3	501-1117
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コシ産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄KSビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮膚科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨコハマ1F	263-0820
由利泌尿器科クリニック	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2 ルス・デ・ルナ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ヶ谷区帷子町1-30-1 クホタビル2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3 第7ハレス桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プラサSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
金沢文庫レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31 ヒルズ・カモ1F	545-5251
マザーズ高田産医院	港北区高田西2-5-27	595-4103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖マリアクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24 アビテノール3C	914-6355
やすこレディースクリニック	都筑区茅ヶ崎中央17-26 ビクトリアセンター南201	948-2567
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮膚科医院	栄区笠間5-20-19 斉藤ビル2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクストアイ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29 瀬谷メディカルプラザ2F	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立市民病院	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(17)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科（小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
室橋内科医院（内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科（眼科）	中区伊勢佐木町6-143-2 ITビル1F	261-1103
片山こどもクリニック（小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルダ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院（基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院（基幹）	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科（小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
いとうファミリークリニック（内科）	金沢区谷津町378	783-5769
石井内科医院（内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック（小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科（小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
はやし小児科医院（小児科）	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院（基幹）	青葉区藤が丘1-30	971-1151
内科小児科むかひら医院（内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
瀬谷こどもクリニック（小児科）	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
清水小児科（小児科）	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルビル3F内	360-9191

疑似症定点(単独は以下の60定点、この他に内科定点59・小児科定点94を加え、計213定点)

医療機関名	所在地	電話番号
クリニック寺尾	鶴見区馬場4-40-12	571-0792
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイスビル3F	584-8233
くらた内科クリニック	鶴見区豊岡町2-3 フーガ3ビル505号室	576-3370
岡本こどもクリニック	鶴見区豊岡町7-7 鶴見駅西口医療ビル1F	570-0377
あしほ総合クリニック	鶴見区鶴見中央3-10	508-3611
井関医院	神奈川区栄町6-1 ヨコハマポートサイドロア式番館1F	451-6864
大口公園クリニック	神奈川区大口仲町15-2	642-7249
神之木クリニック	神奈川区西寺尾3-25-19-4F	435-0113
いわた内科クリニック	神奈川区二ッ谷町6-3雷鳴堂ビル2F	317-8166
三ツ沢ハイタウンクリニック	西区宮ヶ谷25-2 三ツ沢ハイタウン1-111	312-0290
いちの内科クリニック	西区平沼1-2-12 甘糟平沼ビル2F	314-1125
中島医院	中区大和町2-34-5 山手駅前クリニックビル1F	621-8713
南永田診療所	南区永田みなみ台2-12-102	714-4880
上六ッ川内科クリニック	南区六ッ川1-873-3	306-8026
横浜ひまわりクリニック	南区西中町4-72	231-5550
岡内科クリニック	港南区上大岡西1-19-18 長瀬ビル3F	841-0133

医療機関名	所在地	電話番号
栗原医院	港南区大久保2-7-19	842-9066
諏訪クリニック	港南区港南台2-11-17	834-1651
豊福医院	港南区上永谷3-18-16	844-2255
新桜クリニック	保土ケ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
くぬぎ台診療所	保土ケ谷区川島町1404 くぬぎ台団地1-5-104	371-5278
小泉内科・胃腸科クリニック	保土ケ谷区星川1-4-5	331-3325
西山皮膚科	旭区中希望が丘100-4 希望が丘センタービル2F	360-7538
いわま内科クリニック	旭区今宿西町475	958-2377
白根診療所	旭区白根5-16-30	953-8881
つくしクリニック	旭区今宿2-63-14	360-0028
藤田小児科	磯子区杉田1-20-22 三葉ビル	771-2671
土屋内科医院	磯子区栗木1-20-5	773-0011
小谷医院	金沢区能見台3-7-7	773-5551
山口診療所	金沢区釜利谷東2-20-9 クリニックビル2F	785-3912
白石クリニック	金沢区富岡西6-18-25	774-7725
富岡皮膚科クリニック	金沢区富岡西7-3-3 斉木ビル2F	773-2212
高田中央病院	港北区高田西2-6-5	592-5557
大倉山記念病院	港北区樽町1-1-23	531-2546
えびすクリニック	港北区綱島西2-7-2 第7吉田ビル2F	546-8611
日横クリニック	港北区日吉本町1-20-16 日吉教養センタービル2F	563-4115
まつみ医院	港北区日吉本町5-4-1	561-9300
佐々木消化器科・内科	港北区綱島東2-12-19 福島クリニックビル3F	545-4588
山下小児科クリニック	港北区綱島西1-13-16 中村ビル2F	545-1910
鴨居小児科内科医院	緑区鴨居1-3-13-107	935-3281
さいとうクリニック	緑区北八朔町1208-1	932-6555
松田クリニック	青葉区美しが丘西2-6-3	909-0130
さつきが丘こどもクリニック	青葉区さつきが丘4-10 アモンクール1F	971-2239
井上小児科医院	青葉区市ケ尾町1167-1 ラバーブル昌和1F	972-0250
川瀬医院	青葉区田奈町45-6	981-3111
あざみ野皮膚科	青葉区あざみ野2-9-11 サンサーラあざみ野ビル3F	905-1241
山本皮フ科クリニック	青葉区新石川3-15-16 TMIビル1103	910-5033
ふじた内科こども医院	青葉区上谷本町723-1	979-2868
みたに内科クリニック	都筑区中川1-14-10 オールメンビル1F	910-0933
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15 横浜青葉クリニックセンター2F	943-6566
荒井皮膚科クリニック	都筑区茅ヶ崎南3-1-60 サ・グレイス2F	945-1112
都筑あずま内科リウマチ科	都筑区仲町台2-9-12	943-0088
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
わかば医院	戸塚区深谷町55-71	851-3232
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
おおくぼ総合内科クリニック	戸塚区川上町91-1 モレラ東戸塚3F	383-9805
下倉田ハートクリニック	戸塚区下倉田町945-1	869-0381
山崎脳神経外科	栄区長沼町188-8	871-3996
杉本医院	栄区柏陽20-27	891-5417
みたに内科循環器科クリニック	泉区和泉中央南3-1-66 フォレストいずみ中央	806-5067

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日衛 感第 340 号（局長決裁）

最近改正 平成 30 年 5 月 1 日健健安第 291 号（局長決裁）

第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る。）、(12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 M E R S コロナウイルスであるものに限る。）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

四類感染症

(20) E 型肝炎、(21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22) A 型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) 黄熱、(25) オウム病、(26) オムスク出血熱、(27) 回帰熱、(28) キャサナル森林病、(29) Q 熱、(30) 狂犬病、(31) コクシジオイデス症、(32) サル痘、(33) ジカウイルス感染症、(34) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。）、(35) 腎症候性出血熱、(36) 西部ウマ脳炎、(37) ダニ媒介脳炎、(38) 炭疽、(39) チクングニア熱、(40) つつが虫病、(41) デング熱、(42) 東部ウマ脳炎、(43) 鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44) ニパウイルス感染症、(45) 日本紅斑熱、(46) 日本脳炎、(47) ハンタウイルス肺症候群、(48) B ウイルス病、(49) 鼻疽、(50) ブルセラ症、(51) ベネズエラウマ脳炎、(52) ヘンドラウイルス感染症、(53) 発しんチフス、(54) ボツリヌス症、(55) マラリア、(56) 野兎病、(57) ライム病、(58) リッサウイルス感染症、(59) リフトバレー熱、(60) 類鼻疽、(61) レジオネラ症、(62) レプトスピラ症、(63) ロッキー山紅斑熱

五類感染症（全数）

(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺（ポリオを除く。）、(68)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群 (73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(112)新型インフルエンザ、(113)再興型インフルエンザ

指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症（定点）

(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎、(98)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎、(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症、(105)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(106)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(111)薬剤耐性緑膿菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(114)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）若しくは(115)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13)鳥インフルエンザ（H5N1）

第3 実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第4 実施体制の整備

1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1) 健康福祉局は、定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

(2) 健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下、「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。なお、法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定し、神奈川県へ進達する。

3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

4 検査施設

横浜市内における本事業に係る検体等の検査については、横浜市衛生研究所の検査施設（以下、「衛生研究所」という。）において、実施する。衛生研究所は、「検査施設における病原体等の検査の業務管理要領」（健感発1117第2号平成27年11月27日厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、健康福祉局は、横浜市内における検査が適切に実施されるよう施設間の役割を調整する。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定

感染症及び全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

イ 検体等を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」（以下、別記様式1という。）の検査票を添付して提供する。

ウ 福祉保健センター

- (ア) 届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。
- (イ) 福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式1を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。
- (ウ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (エ) 福祉保健センターは、キ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1等により速やかに送付する。
- (オ) なお、迅速な対応が必要な疾患については、健康福祉局と協議の上、対応する。

エ 健康福祉局

- (ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。
- (ウ) 感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。
- (エ) 緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。
- (オ) 迅速な対応が必要と保健所長が定める疾患については、福祉保健センターが行うウ(イ)から(エ)までの対応は、健康福祉局が行う。

オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出情報の確認を行い、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式1及び検体等が送付された場合にあっては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを經由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

2 定点把握対象の五類感染症

- (1) 対象とする感染症の状態
国要綱に定めるとおりとする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、行政区人口を保健所管内人口とみなして国要綱に定めるとおりとする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、医師会等の協力を得て原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、保健所管内人口に

ついて国要綱に定めるとおりとする。

(3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

- (ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。
- (イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。
- (ウ) (イ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

イ 病原体定点

- (ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。
- (イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式2「病原体定点からの検査依頼書」(以下、「別記様式2」という。)を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。
- (ウ) (2)のイにより選定された小児科病原体定点においては、第2の(86)から(96)について、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類のを送付する。
- (エ) (2)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点においては、第2の(97)に掲げるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む。)について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を採取し、衛生研究所と協議のもと、健康福祉局の定める単位ごとに送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合に当たっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式1を添付して提供する。

エ 福祉保健センター

- (ア) 福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付し、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。また、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。

- (イ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1により速やかに送付する。

オ 健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

カ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、届出情報の確認を行い、感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

キ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式2及び検体等が送付された場合にあつては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式2により病原体定点に通知するとともに、健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 衛生研究所は、エ(イ)により別記様式1及び検体等が送付された場合にあつては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して、診断した医師に通知するとともに、別記様式1により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (ウ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

3 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から疑似症定点を選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第 7 条に従い行う。

イ 健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

ウ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、疑似症定点において症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力するものとする。
また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局および中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

4 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1) 福祉保健センター

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国

の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体等が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体等を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

(2) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 医療機関より検体等が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

(3) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検査依頼票及び検体等が送付された場合にあっては、当該検体等を別に定める病原体検査要領に基づき検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ 鳥インフルエンザ (H5N1) に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあっては、法施行規則第9条第2項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。検体等を送付する場合には、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

第6 その他

1 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等について、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。

2 本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱は、平成15年11月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 の 1 の対象感染症に係る改正については、平成 28 年 2 月 15 日から適用する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票は、当面の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。

別記様式一覧表

別記様式 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエ

ンザ等感染症及び指定感染症検査票

別記様式2 病原体定点からの検査依頼書（3枚複写式）

（医療機関控）

（衛生研究所控）

（医療機関あて検査結果通知用）

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 平成 23 年 5 月 24 日 健健安第 304 号（局長決裁）

（設置）

第 1 条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以上 10 人以下をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が毎月 1 回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第 7 条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年5月24日から施行する。

平成 30 年 1 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行警報が発令されています。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。

全数把握の対象

【12 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	6 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	17 件
レジオネラ症	1 件	水痘(入院例に限る)	2 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5 件	梅毒	13 件
急性脳炎	2 件	百日咳	1 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2 件	風しん	1 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7 件	麻しん	1 件
後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	1 件		

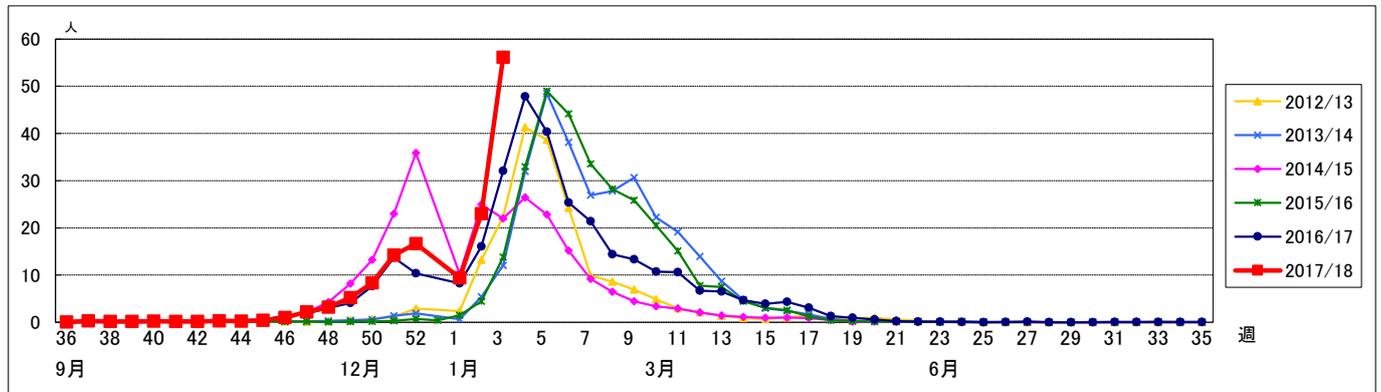
※平成 30 年 1 月 1 日から、百日咳が定点把握から全数把握の対象に変更されました。

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157 の報告が 1 件、O26 の報告が 2 件、O111 の報告が 1 件、O 不明の報告が 2 件ありました。うち、3 件は無症状病原体保有者でした。
- A 型肝炎: 経口感染(地域等不明)と推定される報告が 1 件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が 1 件ありました。感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 10 歳未満の報告が 2 件(幼児 1 件、学童 1 件)ありました。病原体は、1 件は HHV6 または HHV7 疑いで、1 件は不明です。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型 CJD の報告が 2 件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 7 件の報告(A 群 5 件、G 群 2 件)があり、うち 3 件は創傷感染、4 件は感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者(男性、同性間性的接触)の報告が 1 件ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80 歳代の報告が 1 件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が 2 件(ワクチン接種あり 1 件、不明 1 件)、40~50 歳代の報告が 4 件(ワクチン接種歴なし 3 件、不明 1 件)、60 歳代以上の報告が 11 件(ワクチン接種歴あり 1 件、なし 3 件、不明 7 件)でした。
- 水痘(入院例に限る): 10 歳代と 30 歳代の臨床診断例の報告が 1 件ずつで、いずれもワクチン接種歴なしでした。
- 梅毒: 13 件の報告(先天梅毒 1 件、無症状病原体保有者 6 件、早期顕症梅毒 I 期 4 件、早期顕症梅毒 II 期 2 件)がありました。国内での感染が 9 件、感染地域等不明が 4 件で、男性 8 件、女性 5 件でした。感染経路は、母子感染 1 件、異性間性的接触が 5 件、同性間性的接触が 1 件、性別不詳の性的接触が 4 件、感染経路等不明が 2 件です。
- 百日咳: 国内での感染が推定される 30 歳代の報告が 1 件ありました。ワクチン接種歴は不明です。
- 風しん: 国内での感染者との接触による感染と推定される 20 歳代の臨床診断例の報告が 1 件ありました。ワクチン接種歴は不明です。
- 麻しん: バングラデシュでの感染と推定される 50 歳代の修飾麻しんの報告が 1 件ありました。ワクチン接種歴ありです。

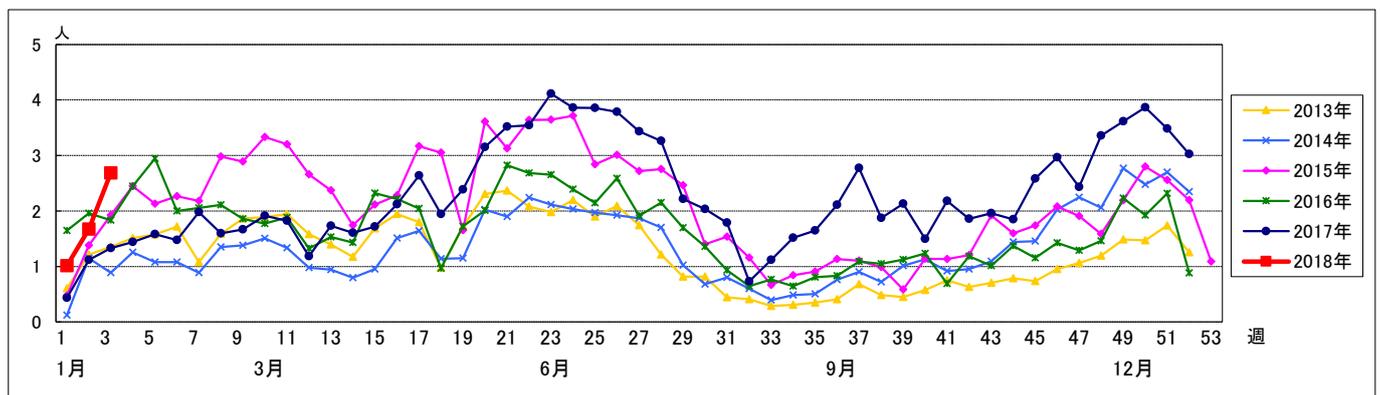
定点把握の対象

平成 29・30 年 週一月日対照表		
第 51 週	12 月 18 日～	24 日
第 52 週	12 月 25 日～	31 日
第 1 週	1 月 1 日～	7 日
第 2 週	1 月 8 日～	14 日
第 3 週	1 月 15 日～	21 日

- 1 インフルエンザ: 2017 年第 51 週で 14.19 にて流行注意報発令、2018 年第 3 週で 56.09 となり、警報発令基準値 (30.00) を超えました。第 3 週の迅速キットによる報告では、A 型 33.1%、B 型 66.6%で、分離・培養では AH1pdm、B 山形系統が多く検出されています。



- 2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、第 3 週で定点あたり 2.69 となっています。



3 性感染症:12 月

性器クラミジア感染症	男性:30 件	女性:26 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7 件	女性: 7 件
尖圭コンジローマ	男性: 7 件	女性: 2 件	淋菌感染症	男性:12 件	女性: 4 件

4 基幹定点週報:

	第 51 週	第 52 週	第 1 週	第 2 週	第 3 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	1.00	0.75	0.00	0.00
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.50	0.00	0.25

5 基幹定点月報:12 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 2 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザの報告数は減少していますが、依然として警報発令中です。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が例年より多い状態が続いています。

全数把握の対象

【1 月期に報告された全数把握疾患】

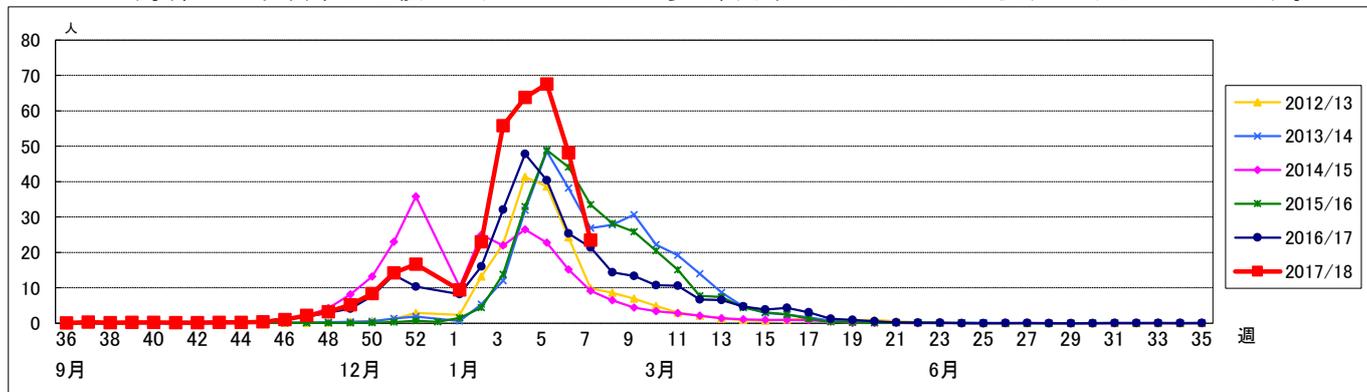
細菌性赤痢	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	4 件
腸管出血性大腸菌感染症	3 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 件
レジオネラ症	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	15 件
アメーバ赤痢	1 件	水痘(入院例に限る)	2 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 件	梅毒	16 件
急性脳炎	4 件	百日咳	1 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 件	風しん	1 件

- 1 細菌性赤痢:boydii(C 群)2 型の無症状病原体保有者の報告が 1 件あり、エチオピアでの経口感染と推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:O157 の報告が 3 件あり、うち 2 件は同一集団でした。
- 3 レジオネラ症:肺炎型の報告が 1 件あり、感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が 1 件あり、国内での異性間の性的接触による感染と推定されています。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:4 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 6 急性脳炎:10 歳未満の報告が 4 件ありました。1 件はインフルエンザ A、1 件はインフルエンザ B が病原体と考えられ、2 件は病原体不明です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A 群、B 群、G 群の報告が 1 件ずつあり、感染経路等不明でした。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が 3 件、AIDS の報告が 1 件あり、いずれも男性でした。感染経路は、同性間の性的接触が 2 件、異性間の性的接触が 1 件、感染経路不明が 1 件でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症:80 歳以上の報告が 3 件あり、1 件はワクチン接種歴なし、2 件はワクチン接種歴不明でした。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症:ワクチン接種歴のある幼児の報告が 1 件ありました。70 歳以上の報告が 8 件(ワクチン接種歴あり 2 件、なし 1 件、不明 5 件)、60 歳代の報告が 3 件(ワクチン接種歴なし 1 件、不明 2 件)、40~50 歳代の報告が 3 件(ワクチン接種歴なし)でした。
- 11 水痘(入院例に限る):10 歳未満と 20 歳代の臨床診断例の報告が 1 件ずつありました。いずれもワクチン接種歴はありませんでした。
- 12 梅毒:16 件の報告(無症状病原体保有者 6 件、早期顕症梅毒 I 期 5 件、早期顕症梅毒 II 期 5 件)がありました。14 件は国内での感染で、2 件は感染地域不明です。男性 10 件、女性 6 件でした。感染経路は、異性間の性的接触が 12 件、同性間の性的接触が 1 件、性別不詳の性的接触が 1 件、不明が 2 件です。
- 13 百日咳:10 歳未満の報告が 1 件(ワクチン接種歴あり)ありました。
- 14 風しん:20 歳代の臨床診断例の報告が 1 件(ワクチン接種歴不明)ありました。

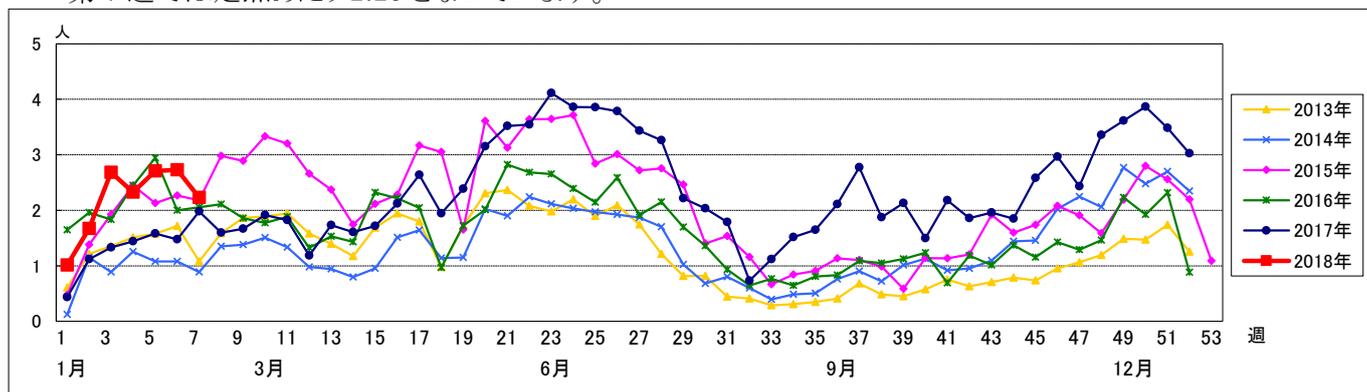
定点把握の対象

平成 30 年 週一月日対照表		
第 4 週	1 月 22 日	～ 1 月 28 日
第 5 週	29 日	～ 2 月 4 日
第 6 週	2 月 5 日	～ 11 日
第 7 週	12 日	～ 18 日

- 1 インフルエンザ: 2017 年第 46 週で 1.00 にて流行開始し、第 51 週で定点あたり 14.19 にて流行注意報発令基準値(10.00)を超え、2018 年第 3 週で 55.76 となり、警報発令基準値(30.00)を超えました。第 5 週の 67.58 をピークとして漸減しており、第 7 週では 23.50 となっています(警報継続基準値は 10.00)。第 1 週以降、迅速検査キットにて B 型が多く、例年に比べて B 型の流行が早くなっています。



- 2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第 7 週では定点あたり 2.23 となっています。



3 性感染症:1 月

性器クラミジア感染症	男性:24 件	女性:25 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5 件	女性: 7 件
尖圭コンジローマ	男性: 7 件	女性: 2 件	淋菌感染症	男性:12 件	女性: 4 件

4 基幹定点週報:

	第 4 週	第 5 週	第 6 週	第 7 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.33	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00

5 基幹定点月報:1 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 3 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザの報告数が、第 10 週で流行警報解除基準値(10.00)を下回りました。
- 性的接触による A 型肝炎の報告が増えています。

全数把握の対象

【3 月期に報告された全数把握疾患】

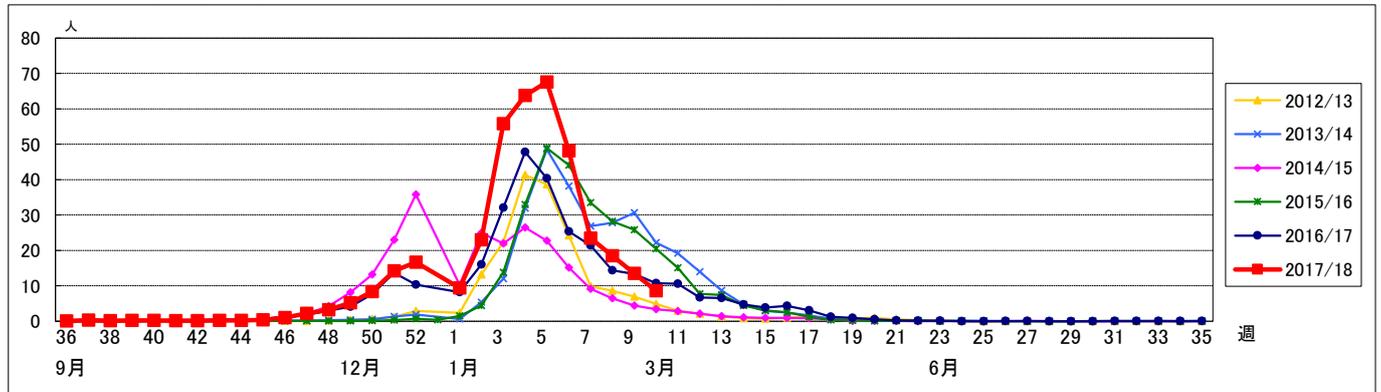
腸管出血性大腸菌感染症	2 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
A 型肝炎	4 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	2 件
レジオネラ症	2 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
急性脳炎	2 件	梅毒	10 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件		

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157 の報告が 1 件、O8 の無症状病原体保有者の報告が 1 件ありました。
- 2 A 型肝炎: 同性間の性的接触による報告が 4 件ありました。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型の報告が 2 件あり、感染経路等不明です。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 2 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 5 急性脳炎: 乳幼児の報告が 2 件ありました。いずれも病原体不明です。
- 6 クロイツフェルト・ヤコブ病: 家族性 CJD の報告が 1 件ありました。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A 群の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が 1 件、その他の報告が 1 件あり、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が 1 件、異性間が 1 件でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70 歳代の報告が 1 件あり、ワクチン接種歴不明でした。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 70 歳以上の報告が 5 件あり、いずれもワクチン接種歴不明でした。
- 11 梅毒: 10 件の報告(無症状病原体保有者 3 件、早期顕症梅毒 I 期 4 件、早期顕症梅毒 II 期 3 件)がありました。9 件は国内での感染で、1 件は感染地域不明です。男性 8 件、女性 2 件でした。感染経路は、異性間の性的接触が 6 件、同性間の性的接触が 2 件、詳細不詳の性的接触が 2 件です。

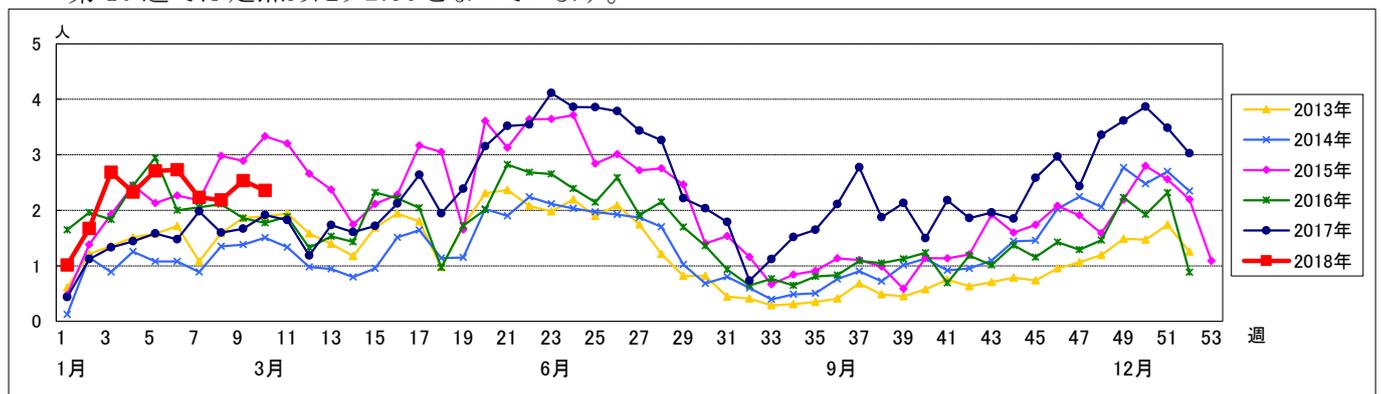
定点把握の対象

平成 30 年 週一月日対照表		
第 8 週	2 月 19 日	～ 25 日
第 9 週	26 日	～ 3 月 4 日
第 10 週	3 月 5 日	～ 11 日

- 1 インフルエンザ: 2017 年第 46 週で 1.01 にて流行開始し、第 51 週で定点あたり 14.19 にて流行注意報発令基準値(10.00)を超え、2018 年第 3 週で 55.76 となり、警報発令基準値(30.00)を超えました。第 5 週の 67.58 をピークとして漸減し、第 10 週では 8.60 となり、警報解除基準値(10.00)を下回りました。第 1 週以降、迅速検査キットにて B 型が多く、例年に比べて B 型の流行が早くなっています。



- 2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第 10 週では定点あたり 2.36 となっています。



3 性感染症:2 月

性器クラミジア感染症	男性:17 件	女性:22 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6 件	女性: 6 件
尖圭コンジローマ	男性: 6 件	女性: 3 件	淋菌感染症	男性:10 件	女性: 2 件

4 基幹定点週報:

	第 8 週	第 9 週	第 10 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.25	0.75	0.00

5 基幹定点月報:2 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 4 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のピックアップ》

- 性的接触による A 型肝炎の報告が多い状態が続いています。
- 第 15 週にてインフルエンザの報告数が定点あたり 1.00 を下回り、流行は終息しました。

全数把握の対象

【4 月期に報告された全数把握疾患】

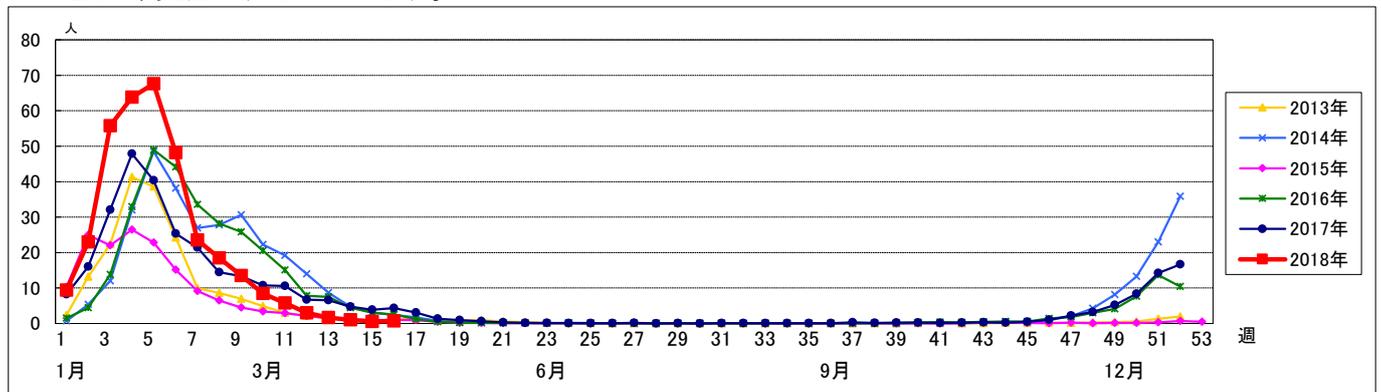
細菌性赤痢	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
腸管出血性大腸菌感染症	5 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	5 件
E 型肝炎	1 件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 件
A 型肝炎	5 件	侵襲性肺炎球菌感染症	14 件
デング熱	1 件	水痘(入院例に限る)	2 件
レジオネラ症	4 件	梅毒	18 件
アメーバ赤痢	4 件	播種性クリプトコックス症	1 件
ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く)	1 件	破傷風	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 件	百日咳	5 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件		

- 1 細菌性赤痢:無症状病原体保有者の報告が 1 件ありました。バングラデシュでの経口感染と推定されます。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:O157 の報告が 3 件、O111 の無症状病原体保有者の報告が 1 件、O104 の無症状病原体保有者の報告が 1 件ありました。O111 はフィリピンでの経口感染と推定されます。
- 3 E 型肝炎:国内での経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
- 4 A 型肝炎:同性間の性的接触による報告が 4 件、経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
- 5 デング熱:フィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
- 6 レジオネラ症:肺炎型の報告が 4 件あり、感染経路等不明です。
- 7 アメーバ赤痢:インドでの経口感染、インドネシアでの経口感染、国内での詳細不明の性的接触による感染、感染経路等不明の報告がそれぞれ 1 件ずつありました。いずれも腸管アメーバ症でした。
- 8 ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く):タイでの異性間性的接触と推定される B 型肝炎の報告が 1 件ありました。
- 9 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:4 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 10 クロイツフェルト・ヤコブ病:家族性 CJD の報告が 1 件ありました。
- 11 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A 群と G 群の報告が 1 件ずつあり、感染経路等不明でした。
- 12 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):AIDS の報告が 1 件、無症状病原体保有者の報告が 2 件、その他の報告が 2 件あり、いずれも男性でした。4 件は同性間性的接触で、1 件は感染経路等不明でした。
- 13 侵襲性髄膜炎菌感染症:50 歳代の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
- 14 侵襲性肺炎球菌感染症:幼児で 2 件(ワクチン 4 回接種)、30 歳代および 40 歳代が 3 件(ワクチン接種歴なし 2 件、不明 1 件)、60 歳以上で 9 件(ワクチン接種歴なし 3 件、不明 6 件)の報告がありました。
- 15 水痘(入院例に限る):80 歳以上の 2 件の報告があり、いずれも臨床診断例です。
- 16 梅毒:18 件の報告(無症状病原体保有者 6 件、早期顕症梅毒 I 期 8 件、早期顕症梅毒 II 期 3 件、晩期顕症梅毒 1 件)がありました。12 件は国内での感染で、1 件はインドネシア、5 件は感染地域不明です。男性 14 件、女性 4 件でした。感染経路は、異性間の性的接触が 8 件、同性間の性的接触が 1 件、詳細不詳の性的接触が 4 件、感染経路等不明が 5 件です。
- 17 播種性クリプトコックス症:80 歳代の免疫不全によると推定される報告が 1 件ありました。
- 18 破傷風:創傷感染と推定される報告が 1 件ありました。
- 19 百日咳:幼児の報告が 4 件(ワクチン接種歴あり 3 件、ワクチン接種歴不明 1 件)、40 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種歴不明)ありました。

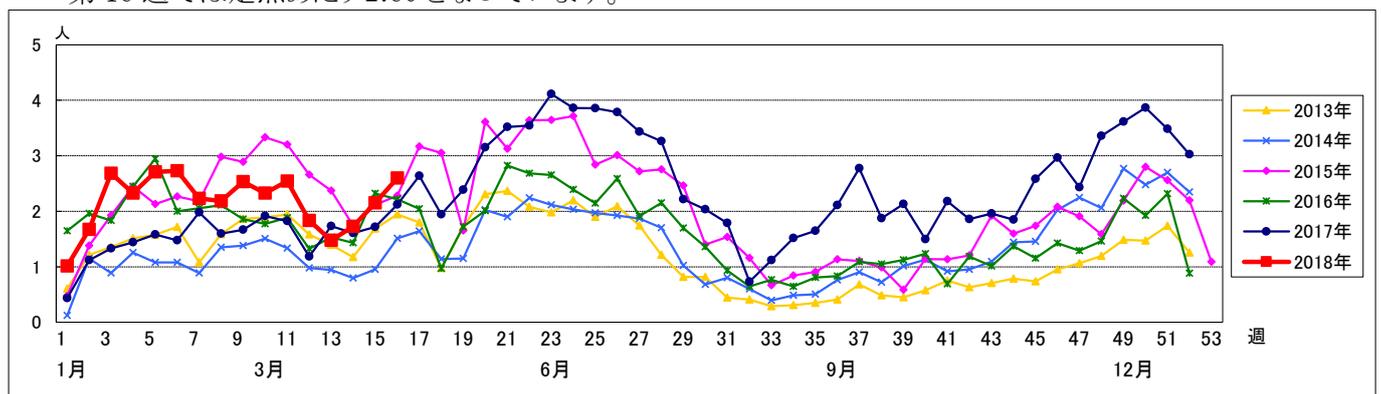
定点把握の対象

平成 30 年 週一月日対照表		
第11週	3月12日	～ 18日
第12週	19日	～ 25日
第13週	26日	～ 4月1日
第14週	4月2日	～ 8日
第15週	9日	～ 15日
第16週	16日	～ 22日

- 1 インフルエンザ: 2017年第46週で1.01にて流行開始し、第51週で定点あたり14.19にて流行注意報発令基準値(10.00)を超え、2018年第3週で55.76となり、警報発令基準値(30.00)を超えました。第5週の67.58をピークとして漸減し、第10週では8.45となり、警報解除基準値(10.00)を下回りました。第15週にて0.55となり、現在は終息しています。



- 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第16週では定点あたり2.60となっています。



3 性感染症:3月

性器クラミジア感染症	男性:23件	女性:27件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:8件	女性:2件	淋菌感染症	男性:10件	女性:1件

4 基幹定点週報:

	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.67	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	1.00	0.33	0.50	0.50	0.50	1.00

5 基幹定点月報:3月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 5 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のピックアップ》

- 性的接触による A 型肝炎の報告が多い状態が続いています。
- 咽頭結膜熱の報告が増加傾向にあります。
- 伝染性紅斑、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多い状態が続いています。

全数把握の対象

【5 月期に報告された全数把握疾患】

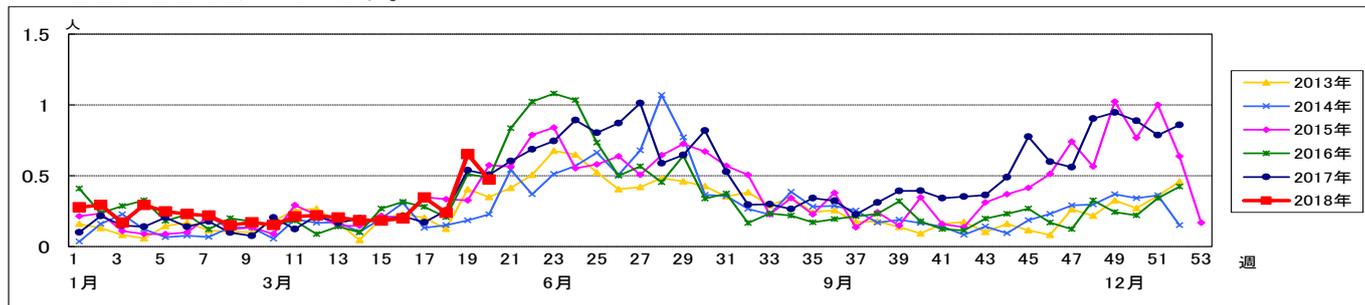
腸管出血性大腸菌感染症	8 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
E 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症含む)	4 件
A 型肝炎	7 件	ジアルジア症	1 件
レジオネラ症	2 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
アメーバ赤痢	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	10 件
ウイルス性肝炎 (E 型肝炎及び A 型肝炎を除く)	2 件	水痘 (入院例に限る)	6 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 件	梅毒	13 件
急性弛緩性麻痺	1 件	百日咳	4 件
急性脳炎	1 件		

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157 の報告が 5 件、O111 の報告が 2 件、O26 の報告が 1 件ありました。O157 の 2 件、O111 の 2 件は同一集団での報告です。
- E 型肝炎: 国内での報告が 1 件あり、感染経路不明でした。
- A 型肝炎: 同性間の性的接触が 5 件 (いずれも国内)、同性間および異性間の性的接触が 1 件 (台湾)、感染経路等不明が 1 件でした。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が 2 件あり、感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 異性間の性的接触が 2 件 (腸管アメーバ症 1 件、腸管外アメーバ症 1 件) でした。
- ウイルス性肝炎 (E 型肝炎及び A 型肝炎を除く): 性的接触による B 型肝炎の報告が 2 件 (同性間が 1 件、異性間が 1 件) ありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性弛緩性麻痺: 10 歳代のポリオ含有ワクチン接種歴 2 回の報告が 1 件ありました。感染経路等不明です。
- 急性脳炎: 幼児の報告が 1 件あり、病原体は不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A 群と G 群の報告が 1 件ずつあり、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む): AIDS の報告が 1 件、無症状病原体保有者の報告が 2 件、その他の報告が 1 件あり、いずれも男性で、性的接触 (異性間 3 件、同性間 1 件) による感染でした。
- ジアルジア症: 国内での同性間の性的接触による報告が 1 件ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 30 歳代および 80 歳代の報告が 1 件ずつありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 10 歳未満で 4 件 (いずれもワクチン接種歴 4 回)、60 歳以上で 6 件 (ワクチン接種歴あり 1 件、なし 1 件、不明 4 件) の報告がありました。
- 水痘 (入院例に限る): 検査診断例が 3 件 (20 歳代、60 歳代、70 歳代 1 件ずつ)、臨床診断例が 3 件 (30 歳代 1 件、40 歳代 2 件) です。
- 梅毒: 13 件の報告 (無症状病原体保有者 3 件、早期顕症梅毒 I 期 7 件、早期顕症梅毒 II 期 3 件) がありました。10 件は国内での感染、1 件はドイツでの感染で、2 件は感染地域不明です。男性 9 件、女性 4 件でした。感染経路は、異性間の性的接触が 9 件、同性間の性的接触が 2 件、詳細不詳の性的接触が 2 件です。
- 百日咳: 新生児が 1 件、幼児、30 歳代の報告が 1 件ずつ (いずれもワクチン接種歴 4 回)、60 歳代の報告が 1 件 (ワクチン接種歴不明) ありました。

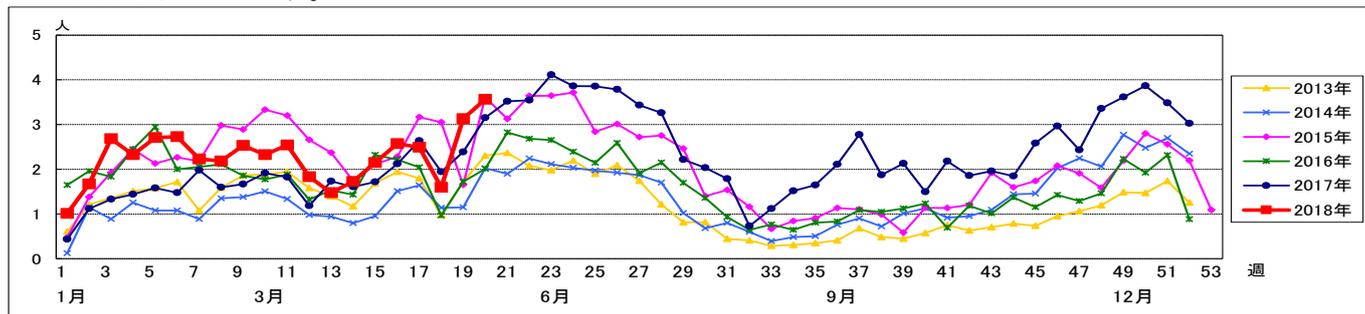
定点把握の対象

平成 30 年 週一月日対照表		
第 17 週	4 月 23 日	～ 29 日
第 18 週	30 日	～ 5 月 6 日
第 19 週	5 月 7 日	～ 13 日
第 20 週	14 日	～ 20 日

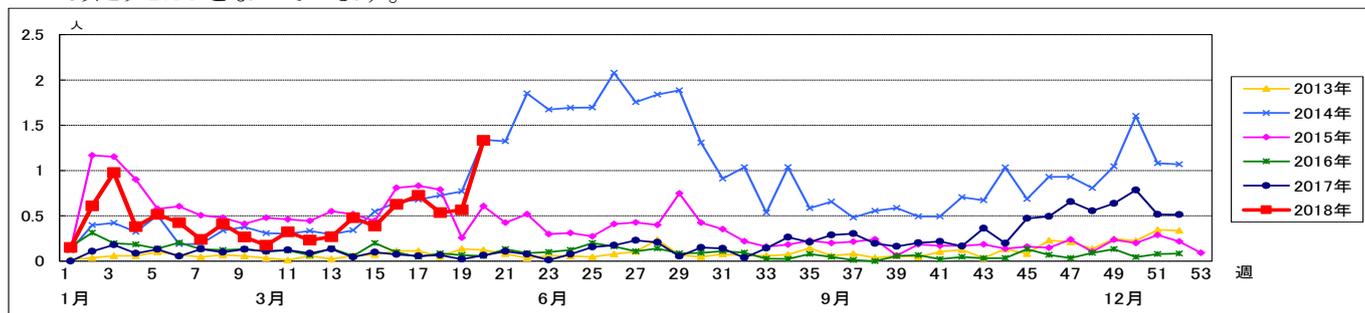
- 1 咽頭結膜熱:第 19 週に定点あたり 0.65 に増加しました。今後、夏季に向けてさらに増加するものと思われます。第 20 週では定点あたり 0.47 となっています。



- 2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎:2017 年から例年と比べて高値で推移しています。第 20 週では定点あたり 3.56 となっています。



- 3 伝染性紅斑:2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第 20 週では定点あたり 1.33 となっています。



4 性感染症:4 月

性器クラミジア感染症	男性:17 件	女性:19 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6 件	女性:14 件
尖圭コンジローマ	男性: 6 件	女性: 2 件	淋菌感染症	男性: 5 件	女性: 4 件

5 基幹定点週報:

	第 17 週	第 18 週	第 19 週	第 20 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	1.25	0.00	0.00	0.50

6 基幹定点月報:4 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 6 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のピックアップ》

- A 型肝炎の報告が多い状態が続いています。
- 咽頭結膜熱の報告が多い状態が続いています。
- RS ウイルス感染症の報告が、やや増加傾向にあります。

全数把握の対象

【6 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	19 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
A 型肝炎	4 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	3 件
レジオネラ症	3 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
アメーバ赤痢	5 件	侵襲性肺炎球菌感染症	12 件
ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く)	1 件	水痘(入院例に限る)	2 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	12 件	梅毒	17 件
急性脳炎	1 件	百日咳	17 件

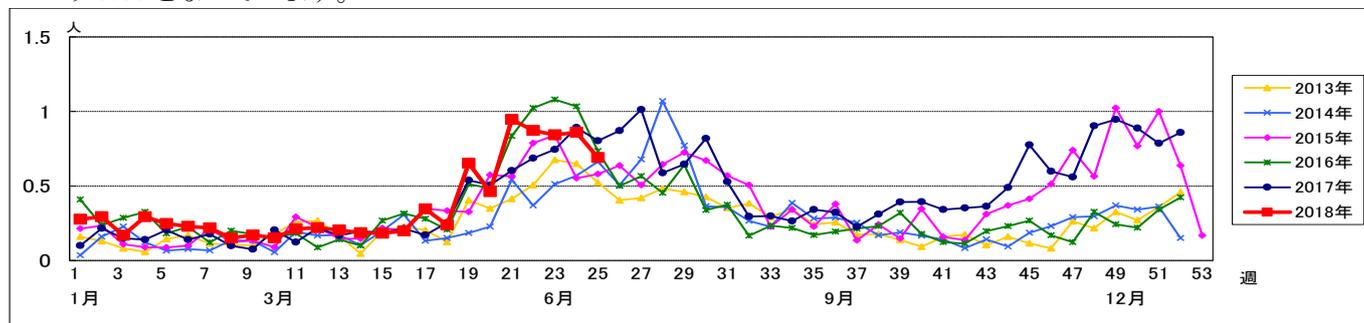
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157 の報告が 18 件、O26 の報告が 1 件ありました。O157 では同一集団内での報告がありました。
- 2 A 型肝炎: いずれも国内での感染と推定され、経口感染が 3 件、感染経路不明が 1 件でした。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型の報告が 3 件あり、感染経路不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が 5 件あり、うち、ベトナムでの経口感染と推定される報告が 1 件、感染経路等不明の報告が 4 件でした。
- 5 ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く): 感染経路不明の CMV の報告が 1 件ありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 12 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 急性脳炎: 小児の報告が 1 件あり、病原体は不明です。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A 群の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): AIDS の報告が 2 件、無症状病原体保有者の報告が 1 件あり、いずれも男性で、性的接触(同性間 2 件、異性間 1 件)による感染でした。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 幼児(ワクチン接種歴 4 回)および 70 歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が 1 件ずつありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児で 2 件(いずれもワクチン接種歴 4 回)、30 歳代および 40 歳代で 5 件(ワクチン接種歴なし 4 件、不明 1 件)、60 歳以上で 5 件(ワクチン接種歴あり 1 件、なし 1 件、不明 3 件)の報告がありました。
- 12 水痘(入院例に限る): 検査診断例 1 件(40 歳代)、臨床診断例 1 件(小児)の報告がありました。
- 13 梅毒: 17 件の報告(無症状病原体保有者 5 件、早期顕症梅毒 I 期 7 件、早期顕症梅毒 II 期 5 件)がありました。14 件は国内での感染、3 件は感染地域不明です。男性 13 件、女性 4 件でした。感染経路は、異性間の性的接触が 15 件、同性間の性的接触が 1 件、不明が 1 件です。
- 14 百日咳: 10 歳未満では、新生児・乳児で 3 件(ワクチン接種歴なし)、小児で 3 件(ワクチン接種歴 4 回)の報告があり、10 歳代で 2 件(ワクチン接種歴 4 回が 1 件、4 回+追加接種 1 回が 1 件)、20 歳代で 3 件(ワクチン接種歴不明)、30 歳代で 4 件(ワクチン接種 1 回が 1 件、不明が 3 件)、40 歳代で 1 件(ワクチン接種歴不明)、60 歳代で 1 件(ワクチン接種歴なし)の報告がありました。

平成 30 年 週一月日対照表

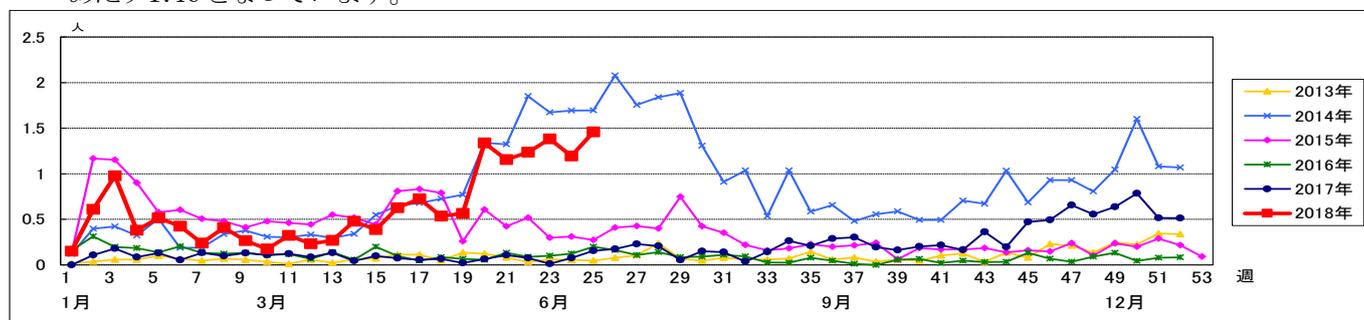
第 21 週	5 月 21 日 ~ 27 日
第 22 週	28 日 ~ 6 月 3 日
第 23 週	6 月 4 日 ~ 10 日
第 24 週	11 日 ~ 17 日
第 25 週	18 日 ~ 24 日

定点把握の対象

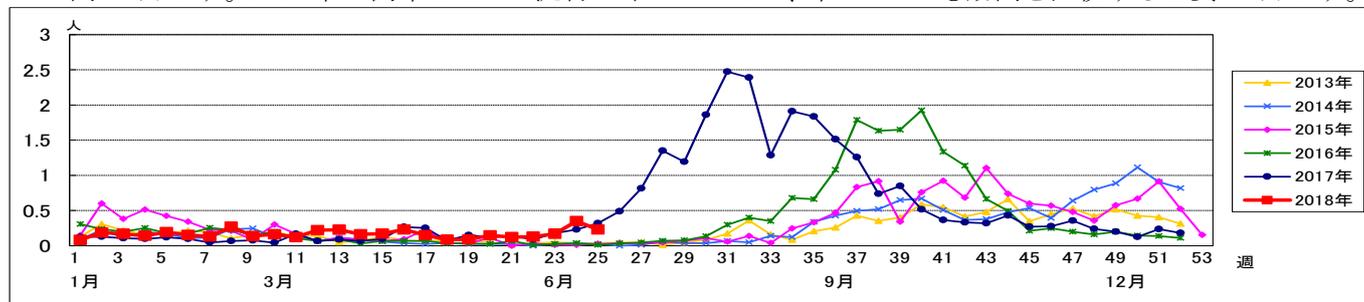
- 1 咽頭結膜熱: 第 19 週より増加傾向となっています。今後、夏季に向けて高値で推移するものと思われます。第 25 週では定点あたり 0.69 となっています。



- 2 伝染性紅斑: 2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第 25 週では定点あたり 1.46 となっています。



- 3 RS ウイルス感染症: 第 23 週で定点あたり 0.17、第 24 週で定点あたり 0.35、第 25 週は 0.23 と、やや増加傾向にあります。2017 年が例年と比べて流行が早かったため、今シーズンも動向を注視する必要があります。



4 性感染症: 5 月

性器クラミジア感染症	男性: 31 件	女性: 26 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5 件	女性: 11 件
尖圭コンジローマ	男性: 4 件	女性: 2 件	淋菌感染症	男性: 8 件	女性: 2 件

5 基幹定点週報:

	第 21 週	第 22 週	第 23 週	第 24 週	第 25 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報: 5 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 7 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 性的接触による A 型肝炎の報告が多い状態が続いています。
- RS ウイルス感染症、ヘルパンギーナの報告が増加傾向にあります。
- 咽頭結膜熱の報告が多い状態が続いています。
- 百日咳の報告が 16 件ありました。今後の推移に注意が必要と考えられます。

全数把握の対象

【7 月期に報告された全数把握疾患】

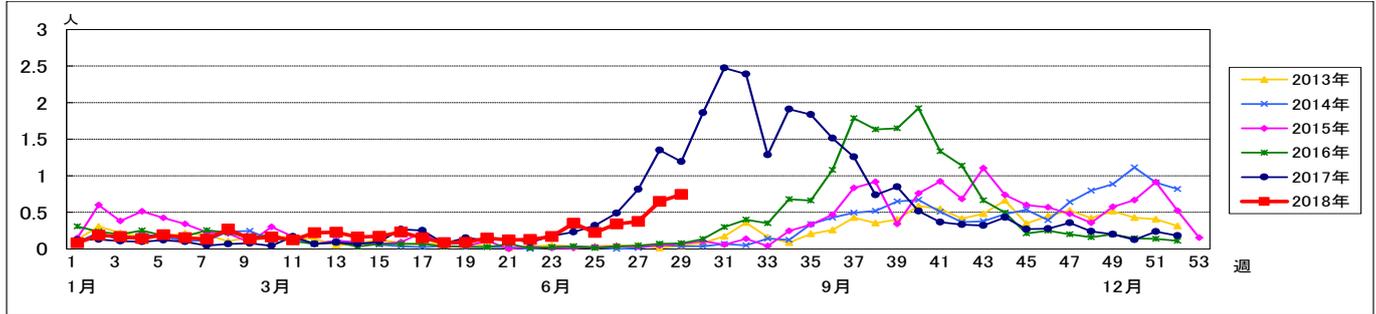
腸管出血性大腸菌感染症	12 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
E 型肝炎	3 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症含む)	6 件
A 型肝炎	5 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
デング熱	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	1 件
レジオネラ症	3 件	水痘 (入院例に限る)	2 件
アメーバ赤痢	5 件	梅毒	8 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5 件	百日咳	16 件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157 の報告が 9 件 (うち 3 件が無症状病原体保有者)、O26 の報告が 2 件 (いずれも無症状病原体保有者)、O103 の報告が 1 件ありました。
- 2 E 型肝炎: いずれも国内での感染と推定され、経口感染が 2 件、感染経路不明が 1 件でした。
- 3 A 型肝炎: 国内での同性間性的接触による感染と推定される報告が 5 件ありました。いずれもワクチン接種歴なしでした。
- 4 デング熱: スリランカでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型の報告が 3 件あり、感染経路不明です。
- 6 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が 5 件ありました。国内では、性的接触による感染と推定される報告が 3 件 (異性間 2 件、同性間 1 件)、経口感染と推定される報告が 1 件あり、国外では、ブラジルでの経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
- 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A 群の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
- 9 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む): AIDS の報告が 3 件、無症状病原体保有者の報告が 3 件ありました。男性 4 件、女性 2 件でした。同性間性的接触が 2 件、異性間性的接触が 2 件、感染経路不明が 2 件でした。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 90 歳代 (ワクチン接種歴なし) の報告が 1 件ありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 70 歳代 (ワクチン接種歴不明) の報告が 1 件ありました。
- 12 水痘 (入院例に限る): 検査診断例 1 件 (20 歳代)、臨床診断例 1 件 (40 歳代) の報告があり、いずれもワクチン接種歴不明でした。
- 13 梅毒: 8 件の報告 (無症状病原体保有者 1 件、早期顕症梅毒 I 期 3 件、早期顕症梅毒 II 期 4 件) がありました。いずれも国内での性的接触による感染が推定され、異性間の性的接触が 5 件、同性間の性的接触が 2 件、異性間および同性間の性的接触が 1 件です。
- 14 百日咳: 10 歳未満では、新生児と乳児が 1 件ずつ (ワクチン接種歴なし)、小児で 10 件 (ワクチン接種歴 4 回) の報告があり、10 歳代で 1 件 (ワクチン接種歴 4 回)、20 歳代で 2 件 (ワクチン接種歴 4 回が 1 件、不明が 1 件)、30 歳代で 1 件 (ワクチン接種歴不明) の報告がありました。

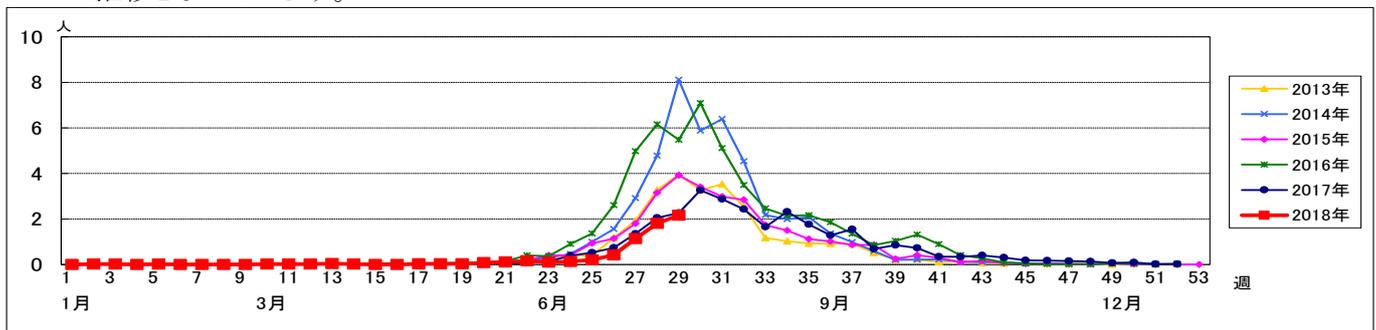
定点把握の対象

平成 30 年 週一月日対照表		
第 26 週	6 月 25 日	～ 7 月 1 日
第 27 週	7 月 2 日	～ 8 日
第 28 週	9 日	～ 15 日
第 29 週	16 日	22 日

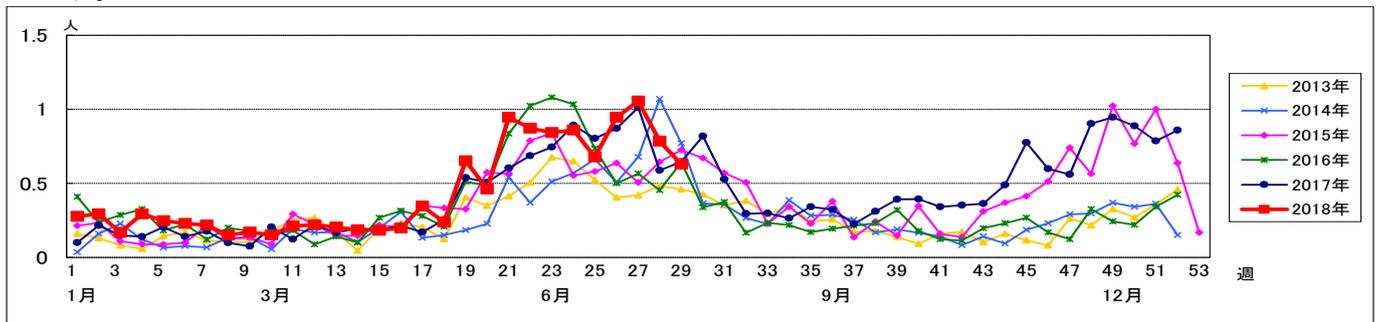
1 RS ウイルス感染症:第 27 週で定点あたり 0.37、第 28 週で定点あたり 0.65、第 25 週は 0.74 と、増加傾向にあります。2017 年と同様の時期に増加しており、今シーズンも動向を注視する必要があります。



2 ヘルパンギーナ:第 26 週頃より増加傾向となり、第 29 週では定点あたり 2.16 となっています。2017 年と同様の推移となっています。



3 咽頭結膜熱:第 19 週より増加傾向となり、高値で推移しています。第 29 週では定点あたり 0.63 となっています。



4 性感染症:6 月

性器クラミジア感染症	男性:29 件	女性:26 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6 件	女性: 9 件
尖圭コンジローマ	男性: 8 件	女性: 2 件	淋菌感染症	男性:14 件	女性: 1 件

5 基幹定点週報:

	第 26 週	第 27 週	第 28 週	第 29 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.25	0.25	0.00
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)	0.00	0.25	0.25	0.00

6 基幹定点月報:6 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 8 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 風しんの報告数が増加しています。
- A 型肝炎の報告が多い状態が続いています。
- 伝染性紅斑の報告が多い状態が続いています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が 23 件ありました。今後の推移に注意が必要と考えられます。
- 百日咳の報告が 40 件ありました。今後の推移に注意が必要と考えられます。

全数把握の対象

【8 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	23 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
E 型肝炎	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
A 型肝炎	4 件	水痘(入院例に限る)	1 件
デング熱	1 件	梅毒	18 件
ライム病	1 件	播種性クリプトコックス症	1 件
レジオネラ症	2 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 件
アメーバ赤痢	3 件	百日咳	40 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	9 件	風しん	9 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 件		

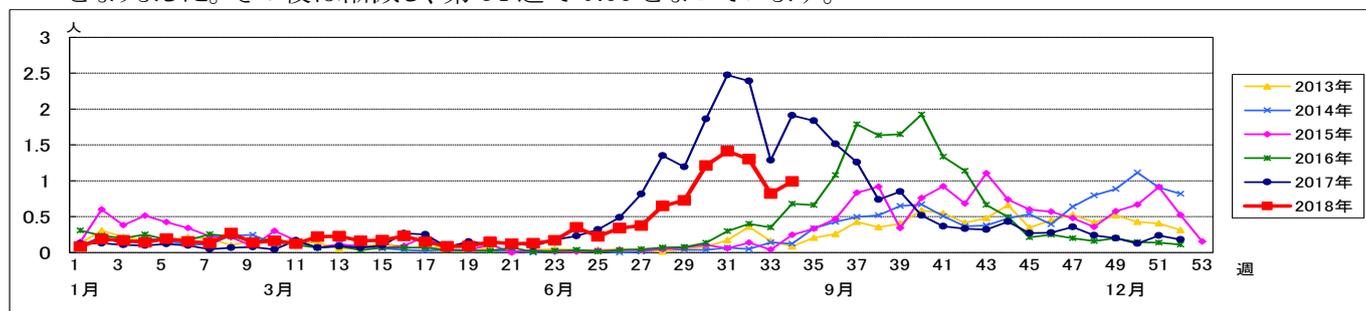
- 腸管出血性大腸菌感染症: O157 の報告が 20 件(うち 4 件が無症状病原体保有者)、O26 の報告が 1 件(無症状病原体保有者)、O111 の報告が 1 件、O115 の報告が 1 件ありました。
- E 型肝炎: 2 件の報告があり、いずれも国内での経口感染と推定されています。
- A 型肝炎: 推定される感染経路は、国内での経口感染が 2 件、経口または異性間性的接触が 1 件、詳細不明の性的接触が 1 件で、いずれもワクチン接種なしでした。
- デング熱: フィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
- ライム病: 国内での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が 2 件あり、感染経路不明です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が 3 件ありました。国外での経口感染と推定される報告が 1 件、国内での経口感染と推定される報告が 1 件、感染経路不明が 1 件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 9 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A 群の報告が 3 件、G 群の報告が 2 件あり、感染経路等不明でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 60 歳代および 90 歳代の報告が 1 件ずつありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が 2 件(いずれもワクチン 4 回接種あり)、50 歳代の報告が 1 件、60 歳代の報告が 1 件、70 歳代の報告が 2 件(いずれもワクチン接種不明)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 40 歳代の検査診断例の報告が 1 件(ワクチン接種なし)ありました。
- 梅毒: 18 件の報告(無症状病原体保有者 8 件、早期顕症梅毒 I 期 7 件、早期顕症梅毒 II 期 3 件)がありました。国内での感染が 17 件、国内またはタイでの感染が 1 件でした。感染経路は、異性間の性的接触が 13 件、同性間の性的接触が 2 件、詳細不明の性的接触が 3 件でした。男性 15 件、女性 3 件でした。
- 播種性クリプトコックス症: 1 件の報告があり、感染地域等不明です。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 2 件の報告がありました。1 件はネパールでの感染が推定され、1 件は感染経路等不明です。
- 百日咳: 10 歳未満では乳児が 4 件(ワクチン接種あり 2 件、なし 2 件)、小児で 16 件(ワクチン接種あり 11 件、不明 5 件)の報告があり、10 歳代で 15 件(ワクチン接種あり 10 件、不明 5 件)、20 歳代で 1 件(ワクチン接種不明)、30 歳代で 3 件(ワクチン接種不明)、40 歳代で 1 件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例 8 件、臨床診断例 1 件が報告されています。10 歳代 2 件(いずれもワクチン接種不明)、20 歳代 2 件(いずれもワクチン接種不明)、30 歳代 1 件(ワクチン接種なし)、40 歳代 3 件(ワクチン接種あり 1 件、なし 1 件、不明 1 件)、60 歳代 1 件(ワクチン接種不明)でした。

平成 30 年 週一月日対照表

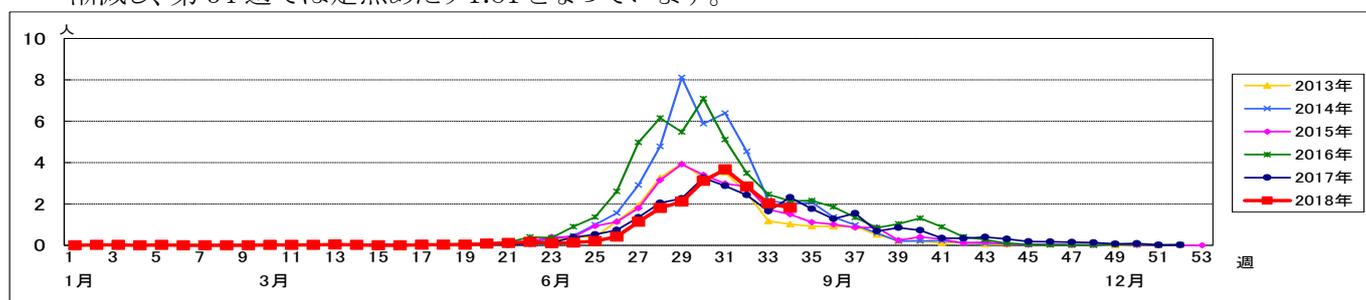
第 30 週	7 月 23 日 ~ 29 日
第 31 週	30 日 ~ 8 月 5 日
第 32 週	8 月 6 日 ~ 12 日
第 33 週	13 日 ~ 19 日
第 34 週	20 日 ~ 26 日

定点把握の対象

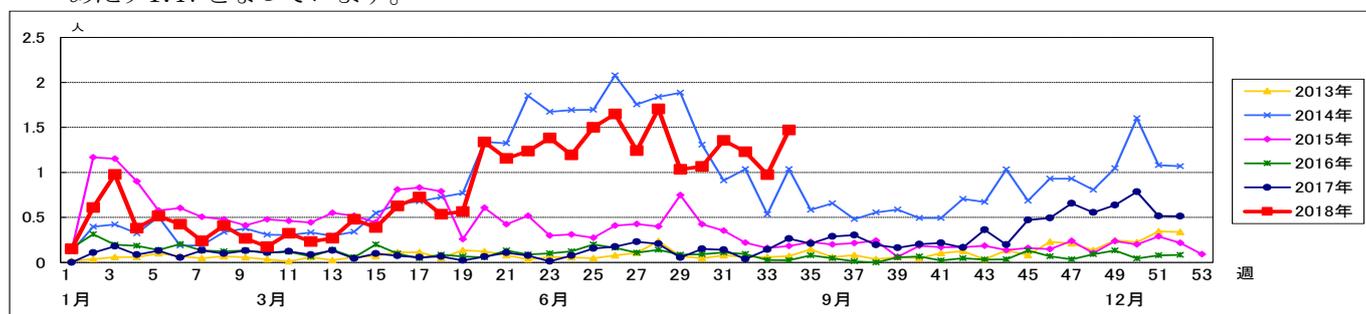
- 1 RS ウイルス感染症:第 27 週で定点あたり 0.37、第 28 週で 0.65、第 30 週で 1.21 と増加傾向となり、第 31 週で 1.41 となってピークとなりました。その後は漸減し、第 34 週で 0.99 となっています。



- 2 ヘルパンギーナ:第 26 週にて 0.42 と増加傾向となり、第 31 週で 3.67 となってピークとなりました。その後は漸減し、第 34 週では定点あたり 1.81 となっています。



- 3 伝染性紅斑:2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第 34 週では定点あたり 1.47 となっています。



4 性感染症:7 月

性器クラミジア感染症	男性:26 件	女性:23 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7 件	女性:16 件
尖圭コンジローマ	男性: 6 件	女性: 1 件	淋菌感染症	男性:15 件	女性: 1 件

5 基幹定点週報:

	第 30 週	第 31 週	第 32 週	第 33 週	第 34 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.50	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報:7 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 9 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のピックアップ》

- 風しんの報告数が増加しています。
- A 型肝炎の報告が多い状態が続いています。

全数把握の対象

【9 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	23 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
E 型肝炎	4 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	3 件
A 型肝炎	5 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
デング熱	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	3 件
レジオネラ症	1 件	水痘(入院例に限る)	3 件
アメーバ赤痢	1 件	梅毒	11 件
ウイルス性肝炎	4 件	百日咳	28 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	11 件	風しん	31 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件		

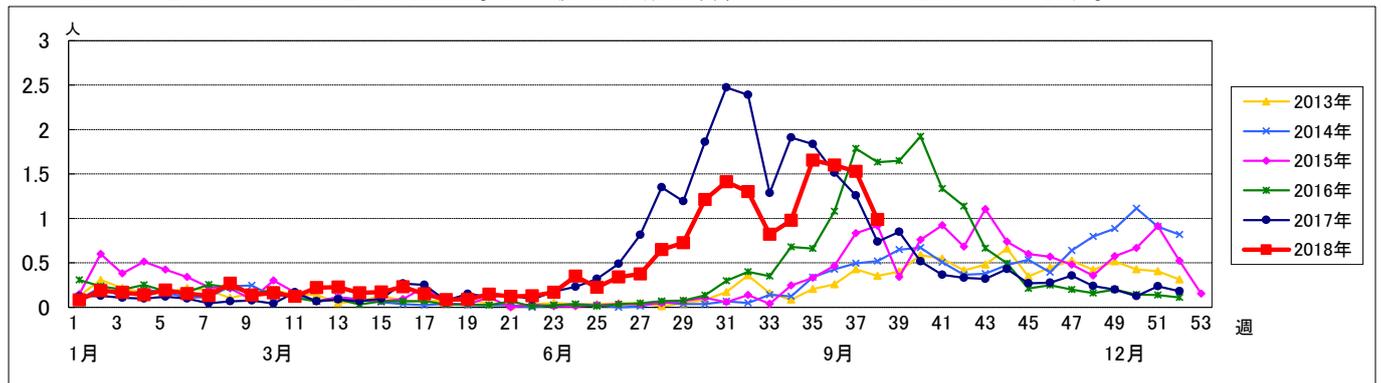
- 腸管出血性大腸菌感染症: O157 の報告が 17 件(うち 5 件が無症状病原体保有者)、O121 の報告が 1 件、O145 の報告が 2 件(いずれも無症状病原体保有者)、O 不明の報告が 3 件(うち 1 件が無症状病原体保有者)ありました。
- E型肝炎: 4 件の報告があり、1 件は経口感染、3 件は感染経路等不明でした。
- A 型肝炎: 推定される感染経路は、経口感染が国内で 1 件、エチオピアで 1 件、同性間性的接触が 2 件、感染経路等不明が 1 件で、いずれもワクチン接種なし、または不明でした。
- デング熱: フィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が 2 件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が 1 件あり、感染経路不明です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
- ウイルス性肝炎: B 型の報告が 4 件ありました。感染経路は、異性間性的接触が 2 件、不明 1 件、針等または性的接触が 1 件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 11 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型 CJD の報告が 1 件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B 群の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): AIDS の報告が 2 件、無症状病原体保有者の報告が 1 件ありました。男性 2 件、女性 1 件でした。いずれも異性間性的接触で、感染地域は国内 1 件、台湾 1 件、不明 1 件でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 90 歳代の報告が 1 件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が 2 件(ワクチン 4 回接種 1 件、3 回接種 1 件)、70 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種なし)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 60 歳代および 80 歳代の検査診断例の報告が 1 件ずつ(いずれもワクチン接種不明)、40 歳代の臨床診断例の報告が 1 件(ワクチン接種なし)ありました。
- 梅毒: 11 件の報告(無症状病原体保有者 6 件、早期顕症梅毒 I 期 3 件、早期顕症梅毒 II 期 2 件)がありました。感染地域は 9 件が国内、2 件が不明で、感染経路は異性間の性的接触が 7 件、同性間の性的接触が 1 件、詳細不明の性的接触が 2 件、不明が 1 件です。男性 7 件、女性 4 件でした。
- 百日咳: 10 歳未満では乳児が 2 件(ワクチン接種なし)、小児で 10 件(いずれもワクチン接種 4 回あり)の報告があり、10 歳代で 3 件(ワクチン接種 4 回あり)、30 歳代で 2 件(ワクチン接種不明)、40 歳代 4 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 3 件)、50 歳代 5 件(ワクチン接種不明 5 件)、60 歳以上 2 件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例 28 件、臨床診断例 3 件が報告されています。10 歳未満 1 件(ワクチン接種なし)、10 歳

代1件(ワクチン接種なし)、20歳代2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、30歳代9件(ワクチン接種なし1件、不明8件)、40歳代8件(ワクチン接種あり1件、なし2件、不明5件)、50歳代9件(ワクチン接種あり1件、なし2件、不明6件)、60歳代1件(ワクチン接種不明)でした。

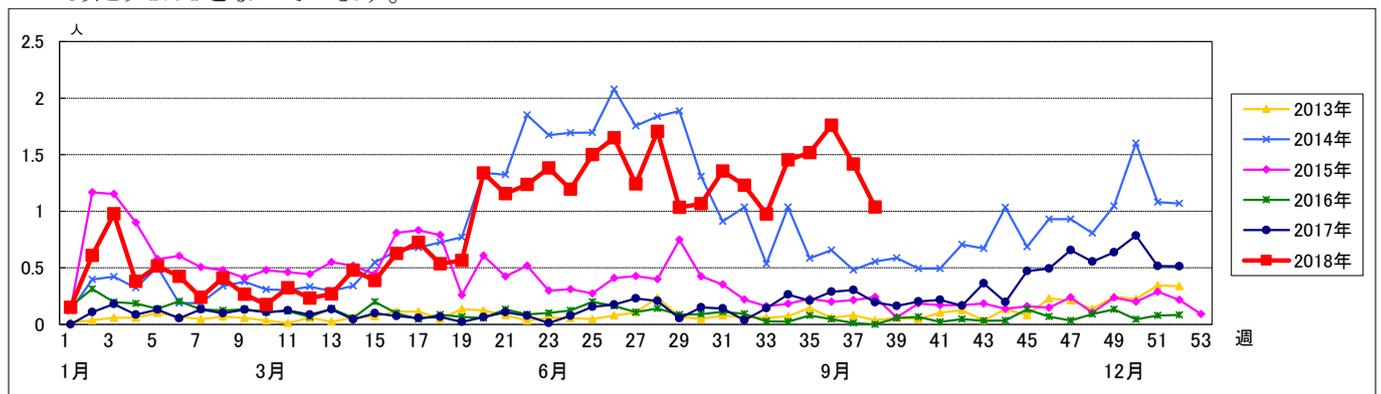
平成30年 週一月日対照表		
第35週	8月27日	～ 9月2日
第36週	9月3日	～ 9日
第37週	10日	～ 16日
第38週	17日	～ 23日

定点把握の対象

- 1 RSウイルス感染症:第27週で定点あたり0.37、第28週で0.65、第30週で1.21と増加傾向となり、第35週で1.66となってピークとなりました。その後は漸減し、第38週で0.99となっています。



- 2 伝染性紅斑:2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第38週では定点あたり1.04となっています。



3 性感染症:8月

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:28件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:8件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:1件	淋菌感染症	男性:9件	女性:4件

4 基幹定点週報:

	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.75	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報:8月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 10 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 風しんの報告数が多い状態が続いており、今後の推移に注意が必要と考えられます。
- 伝染性紅斑の報告数が多い状態が続いています。
- 百日咳の報告が 40 件ありました。

全数把握の対象

【10 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	17 件	急性脳炎	1 件
腸チフス	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	2 件
E 型肝炎	1 件	ジアルジア症	1 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	4 件
デング熱	1 件	水痘(入院例に限る)	2 件
レジオネラ症	8 件	梅毒	10 件
レプトスピラ症	1 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	4 件	百日咳	40 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	15 件	風しん	53 件
急性弛緩性麻痺	1 件		

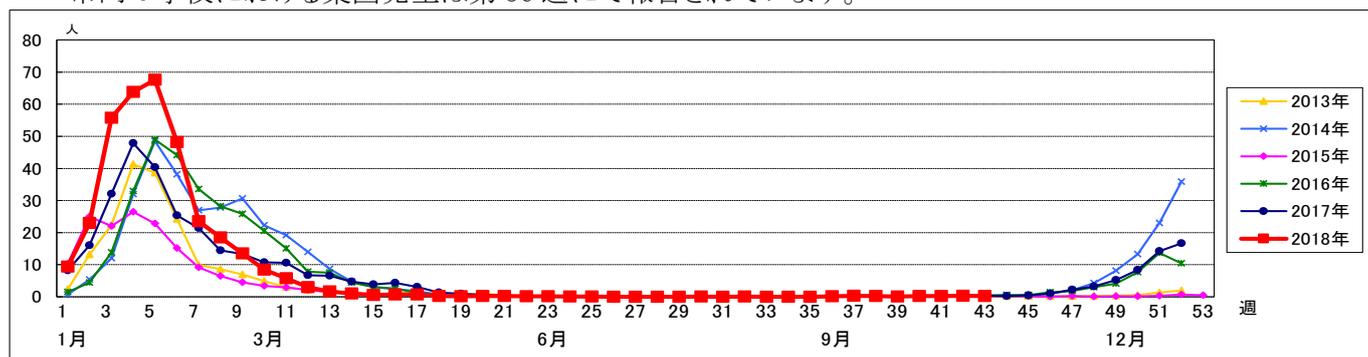
- 腸管出血性大腸菌感染症: O157 の報告が 12 件(うち 2 件が無症状病原体保有者)、O26 の報告が 4 件(うち 2 件が無症状病原体保有者)、O121 の報告が 1 件ありました。
- 腸チフス: インドでの経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
- E型肝炎: 経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
- A 型肝炎: 感染経路等不明の報告が 1 件ありました。
- デング熱: ベトナムでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が 8 件あり、感染経路不明です。
- レプトスピラ症: 水系感染と推定される報告が 1 件ありました。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が 4 件あり、2 件は同性間の性的接触、1 件は経口感染、1 件は感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 15 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性弛緩性麻痺: ポリオ含有ワクチン接種 4 回ありの幼児の報告が 1 件ありました。
- 急性脳炎: 小児の報告が 1 件あり、病原体不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者の男性の報告が 2 件あり、いずれも国内での性的接触で、同性間が 1 件、異性間が 1 件でした。
- ジアルジア症: 1 件の報告があり、感染経路等不明です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 60 歳代の報告が 2 件(いずれもワクチン接種なし)、80 歳以上の報告が 2 件(ワクチン接種あり 1 件、不明 1 件)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 20 歳代の報告が 2 件(ワクチン接種あり 1 件、不明 1 件)ありました。
- 梅毒: 10 件の報告(無症状病原体保有者 2 件、早期顕症梅毒 I 期 6 件、早期顕症梅毒 II 期 2 件)がありました。感染地域はいずれも国内で、感染経路は異性間の性的接触が 9 件、詳細不明の性的接触が 1 件です。男性 9 件、女性 1 件でした。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 60 歳代の報告が 1 件あり、感染経路等不明でした。
- 百日咳: 10 歳未満では乳児が 5 件(ワクチン接種あり 2 件、なし 3 件)、小児で 18 件(ワクチン接種あり 16 件、不明 2 件)の報告があり、10 歳代で 11 件(ワクチン接種あり 9 件、不明 2 件)、30~40 歳代で 2 件(ワクチン接種不明)、50 歳代 2 件(ワクチン接種不明)、60 歳以上 2 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件)の報告がありました。

19 風しん:検査診断例 50 件、臨床診断例 3 件が報告されています。10 歳代 1 件(ワクチン接種なし)、20 歳代 13 件(ワクチン接種あり 1 件、なし 5 件、不明 7 件)、30 歳代 11 件(ワクチン接種あり、1 件、なし 1 件、不明 9 件)、40 歳代 18 件(ワクチン接種なし 4 件、不明 14 件)、50 歳代 8 件(ワクチン接種なし 3 件、不明 5 件)、60 歳代 2 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件)でした。男性 46 件、女性 7 件でした。

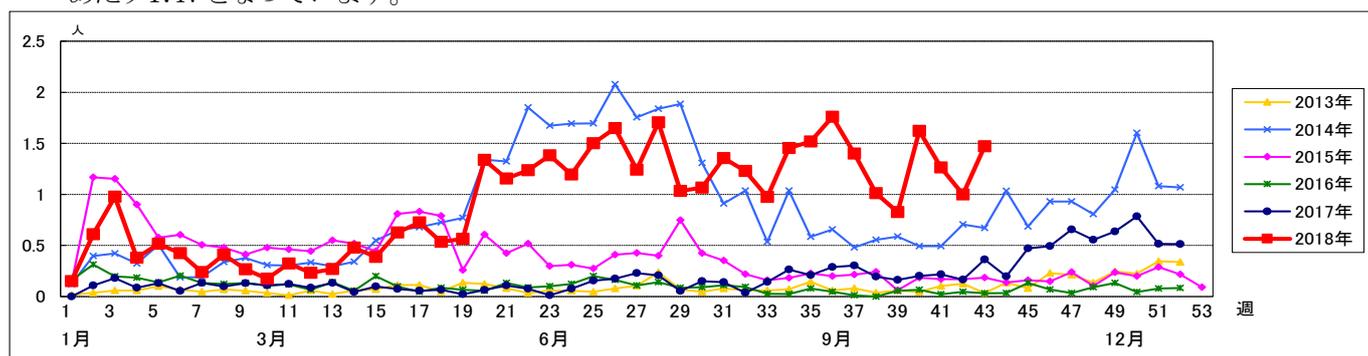
平成 30 年 週一月日対照表		
第 39 週	9 月 24 日	～ 30 日
第 40 週	10 月 1 日	～ 7 日
第 41 週	8 日	～ 14 日
第 42 週	15 日	～ 21 日
第 43 週	22 日	～ 28 日

定点把握の対象

1 インフルエンザ:流行開始の目安となる定点あたり 1.0 は超えていませんが、定点あたり 0.1～0.3 で推移し、第 43 週は 0.18 でした。市内の学校における集団発生は第 36 週にて報告されています。



2 伝染性紅斑:2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第 43 週では定点あたり 1.47 となっています。



3 性感染症:9 月

性器クラミジア感染症	男性:27 件	女性:27 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10 件	女性:14 件
尖圭コンジローマ	男性: 4 件	女性: 1 件	淋菌感染症	男性:16 件	女性: 1 件

4 基幹定点週報:

	第 39 週	第 40 週	第 41 週	第 42 週	第 43 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報:9 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 11 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のピックアップ》

- 風しんの報告数が多い状態が続いています。
- 伝染性紅斑の報告数が多い状態が続いています。
- 百日咳の報告が 34 件ありました。

全数把握の対象

【11 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	3 件	急性脳炎	2 件
腸管出血性大腸菌感染症	6 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
E 型肝炎	2 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	3 件
A 型肝炎	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	4 件
デング熱	4 件	水痘(入院例に限る)	3 件
レジオネラ症	4 件	梅毒	7 件
アメーバ赤痢	4 件	破傷風	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5 件	百日咳	34 件
急性弛緩性麻痺	1 件	風しん	39 件

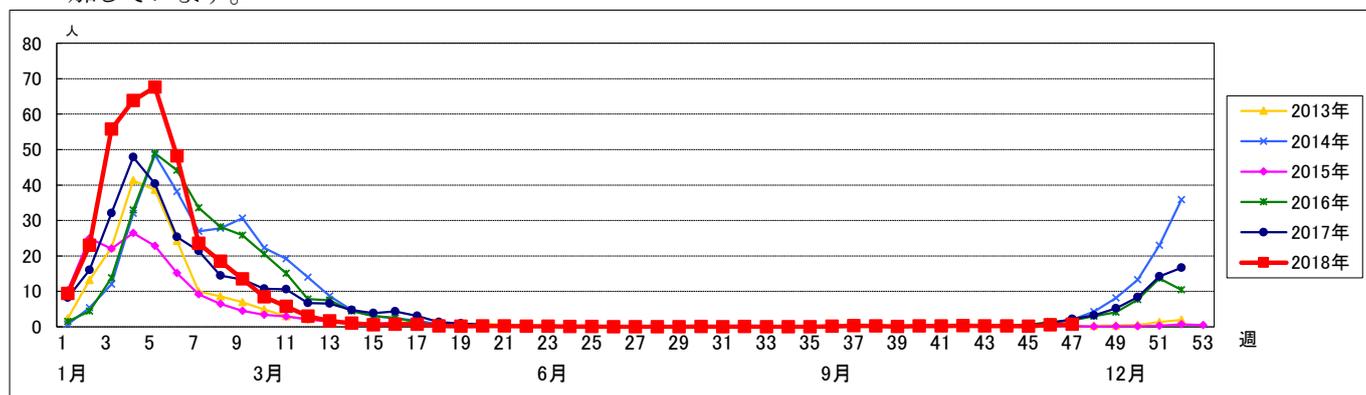
- 1 細菌性赤痢:ハワイでの経口感染と推定される報告(sonnei(D 群))が 2 件、感染経路等不明の報告(flexneli(B 群))が 1 件ありました。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:O157 の報告が 5 件(うち 1 件が無症状病原体保有者)、O145 の報告が 1 件ありました。
- 3 E型肝炎:経口感染と推定される報告が 1 件、感染経路等不明の報告が 1 件ありました。
- 4 A 型肝炎:同性間の性的接触と推定される報告が 2 件、経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
- 5 デング熱: 4 件の報告(感染地域はマレーシア、インド、タイ、ベトナム)がありました。
- 6 レジオネラ症:肺炎型の報告が 4 件あり、感染経路等不明です。
- 7 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が 4 件あり、国内での異性間の性的接触が 1 件、カンボディアでの経口感染が 1 件、感染経路等不明が 2 件でした。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:5 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 9 急性弛緩性麻痺: ポリオ含有ワクチン接種 4 回ありの幼児の報告が 1 件ありました。
- 10 急性脳炎: 小児および 70 歳代の報告が 1 件ずつあり、いずれも病原体は VZV でした。
- 11 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 乳児の報告が 1 件ありました。
- 12 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): AIDS の報告が 1 件(感染経路等不明)、無症状病原体保有者の報告が 2 件(中国での異性間性的接触が 1 件、タイでの同性間性的接触が 1 件)ありました。いずれも男性でした。
- 13 侵襲性肺炎球菌感染症:60 歳代の報告が 2 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件)、70 歳代の報告が 2 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 1 件)ありました。
- 14 水痘(入院例に限る):10 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種あり)、20 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種不明)、80 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種不明)ありました。
- 15 梅毒:7 件の報告(無症状病原体保有者 3 件、早期顕症梅毒 I 期 2 件、早期顕症梅毒 II 期 2 件)がありました。いずれも感染地域は国内、感染経路は性的接触で、異性間が 4 件、異性間および同性間が 1 件、詳細不明が 2 件でした。男性 4 件、女性 3 件でした。
- 16 破傷風:10 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種あり)ありました。
- 17 百日咳:10 歳未満では乳児が 5 件(ワクチン接種あり 1 件、なし 4 件)、小児が 15 件(ワクチン接種あり 13 件、不明 2 件)の報告があり、10 歳代で 10 件(ワクチン接種あり 7 件、不明 3 件)、20 歳代で 1 件(ワクチン接種あり)、30 歳代で 2 件(いずれもワクチン接種不明)、40 歳代で 1 件(ワクチン接種不明)の報告がありました。

18 風しん:検査診断例 36 件、臨床診断例 3 件が報告されています。20 歳代 6 件(ワクチン接種あり 2 件、なし 1 件、不明 3 件)、30 歳代 13 件(いずれもワクチン接種不明)、40 歳代 14 件(ワクチン接種なし 2 件、不明 12 件)、50 歳代 5 件(ワクチン接種なし 1 件、不明 4 件)、60 歳代 1 件(ワクチン接種あり)でした。男性 35 件、女性 4 件でした。

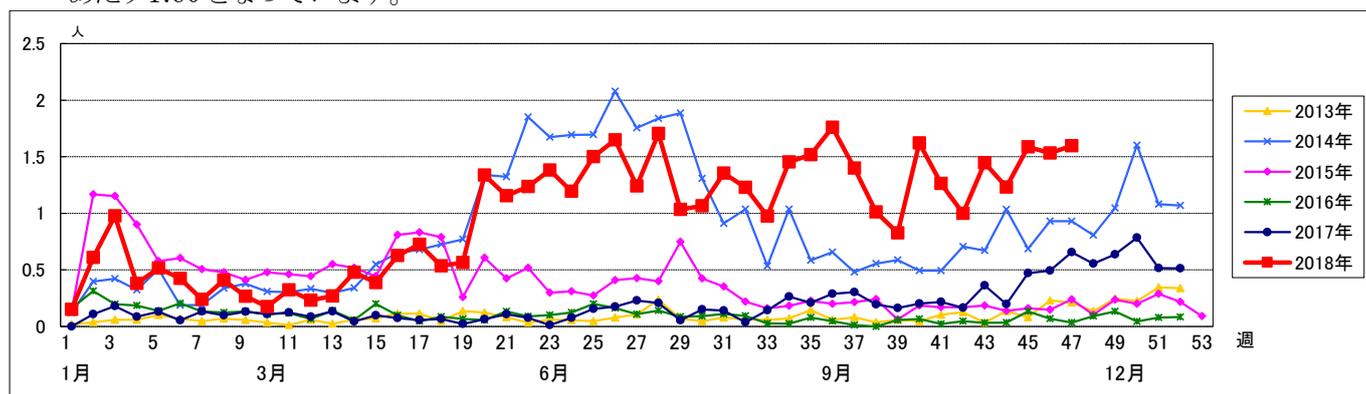
定点把握の対象

1 インフルエンザ:流行開始の目安となる定点あたり 1.00 は超えていませんが、第 45 週は 0.18、第 46 週は 0.51、第 47 週は 0.73 と増加しています。

週	日
第 44 週	10 月 29 日 ~ 11 月 4 日
第 45 週	11 月 5 日 ~ 11 日
第 46 週	12 日 ~ 18 日
第 47 週	19 日 ~ 25 日



2 伝染性紅斑:2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第 47 週では定点あたり 1.60 となっています。



3 性感染症:10 月

性器クラミジア感染症	男性:30 件	女性:25 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5 件	女性:10 件
尖圭コンジローマ	男性: 5 件	女性: 2 件	淋菌感染症	男性:11 件	女性: 1 件

4 基幹定点週報:

	第 44 週	第 45 週	第 46 週	第 47 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.25	0.33	0.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報:10 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

平成 30 年 12 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のピックアップ》

- インフルエンザ流行注意報が発令されています。
- 伝染性紅斑の流行警報が発令されています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。

全数把握の対象

【12 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
腸管出血性大腸菌感染症	4 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症含む)	4 件
E 型肝炎	2 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
A 型肝炎	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	13 件
デング熱	1 件	水痘(入院例に限る)	1 件
レジオネラ症	3 件	梅毒	10 件
アメーバ赤痢	4 件	百日咳	39 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7 件	風しん	31 件
急性脳炎	3 件	麻しん	2 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件		

- 1 細菌性赤痢:ハワイでの感染と推定される報告(sonnei(D 群))が 1 件ありました。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:O157 の報告が 2 件(うち 1 件が無症状病原体保有者)、O128(無症状病原体保有者)の報告が 1 件、O 不明(無症状病原体保有者)の報告が 1 件ありました。
- 3 E型肝炎:経口感染と推定される報告が 2 件ありました。
- 4 A 型肝炎:経口感染または異性間の性的接触と推定される報告が 1 件、経口感染と推定される報告が 1 件ありました。
- 5 デング熱:マレーシアでの蚊からの感染と推定される報告が 1 件ありました。
- 6 レジオネラ症:肺炎型の報告が 3 件あり、感染経路等不明です。
- 7 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が 4 件(異性間の性的接触が 2 件、経口感染が 1 件、感染経路等不明が 1 件)ありました。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:7 件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 9 急性脳炎: 小児の報告が 2 件(病原体不明)、60 歳代の報告が 1 件(風しんウイルス)ありました。
- 10 クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型 CJD の報告が 1 件ありました。
- 11 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 50 歳代と 80 歳代の報告が 1 件ずつありました。
- 12 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): AIDS の報告が 2 件(国内での同性間の性的接触)、無症状病原体保有者の報告が 2 件(いずれも同性間の性的接触で、中国および国内での感染が 1 件ずつ)ありました。いずれも男性でした。
- 13 侵襲性インフルエンザ菌感染症:70 歳代の報告が 2 件ありました。
- 14 侵襲性肺炎球菌感染症:幼児の報告が 1 件(ワクチン接種 3 回)、10 歳代の報告が 1 件(ワクチン接種不明)、40 歳代および 50 歳代の報告が 1 件ずつ(ワクチン接種不明)、70 歳代の報告が 5 件(ワクチン接種あり 1 件、なし 3 件、不明 1 件)、80 歳代の報告が 4 件(ワクチン接種あり 3 件、なし 1 件)ありました。
- 15 水痘(入院例に限る):20 歳代の臨床診断例の報告が 1 件(ワクチン接種なし)ありました。
- 16 梅毒:10 件の報告(無症状病原体保有者 6 件、早期顕症梅毒 I 期 2 件、早期顕症梅毒 II 期 1 件、晩期顕症梅毒が 1 件)がありました。感染経路は、異性間の性的接触が 4 件、同性間の性的接触が 1 件、詳細不明の性的接触が 1 件、母子感染の推定が 1 件、感染経路不明が 3 件でした。男性 6 件、女性 4 件でした。
- 17 百日咳:10 歳未満では乳児が 4 件(ワクチン接種あり 2 件、なし 2 件)、小児が 20 件(ワクチン接種あり 16 件、不明 4 件)の報告があり、10 歳代で 11 件(ワクチン接種あり 8 件、不明 3 件)、30 歳代で 3 件(ワクチン接種

不明)、40歳代で1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。

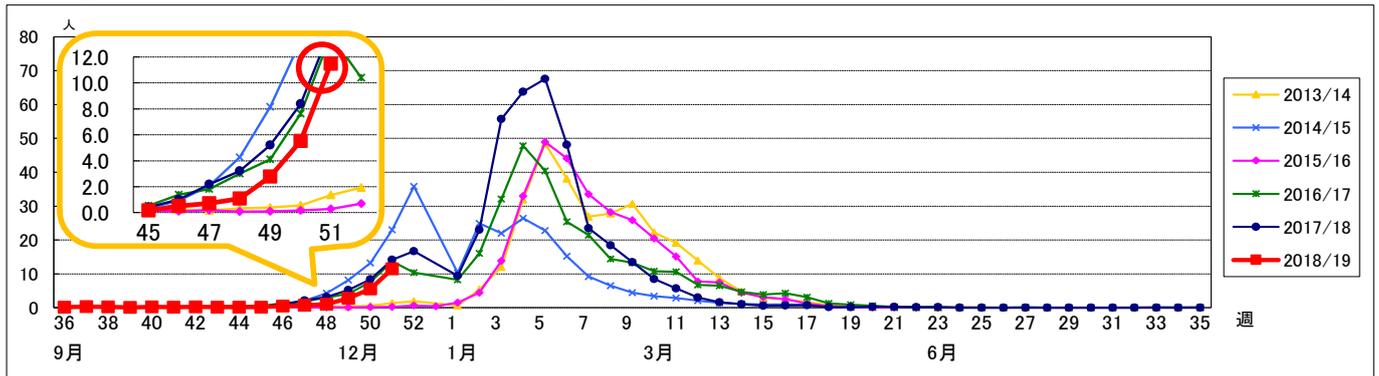
18 風しん:検査診断例 30 件、臨床診断例 1 件が報告されています。幼児が 1 件(ワクチン接種なし)、20 歳代が 11 件(ワクチン接種あり 3 件、なし 2 件、不明 6 件)、30 歳代が 6 件(いずれもワクチン接種不明)、40 歳代が 6 件(ワクチン接種なし 2 件、不明 4 件)、50 歳代が 6 件(いずれもワクチン接種不明)、60 歳代 1 件(ワクチン接種不明)でした。男性 25 件、女性 6 件でした。

19 麻しん:タイでの感染が推定される報告が 1 件、その接触者の報告が 1 件ありました。

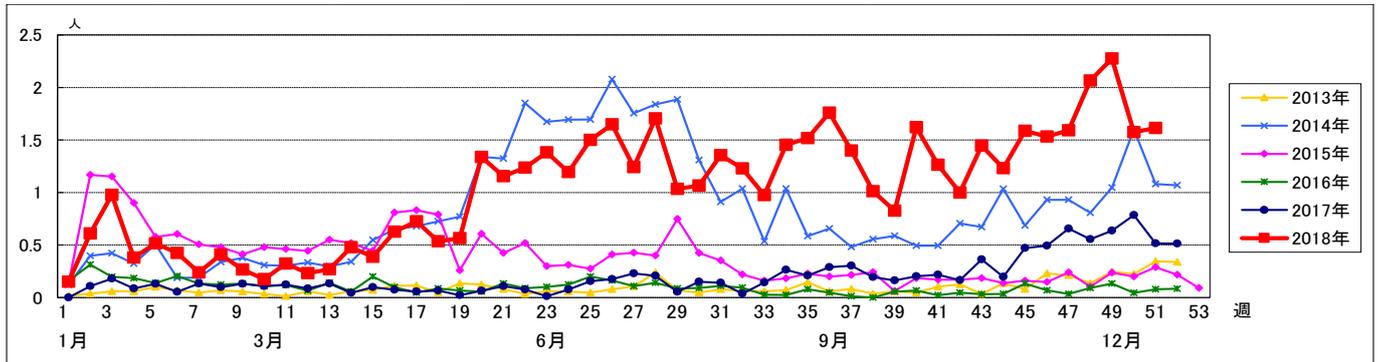
定点把握の対象

1 インフルエンザ【注意報発令中】:第 48 週にて定点あたり 1.08 となり、流行開始の目安(定点あたり 1.00)を上回りました。さらに第 51 週は 11.47 と増加し、注意報発令基準(10.00)を上回りました。

平成 30 年 週一月日対照表	
第 48 週	11 月 26 日 ~ 12 月 2 日
第 49 週	12 月 3 日 ~ 9 日
第 50 週	10 日 ~ 16 日
第 51 週	17 日 ~ 23 日



2 伝染性紅斑【警報発令中】:2017 年第 45 週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移していましたが、第 48 週にて 2.07 にて警報発令基準(2.00)を上回りました。第 51 週は 1.62 と高値が続いています。



3 性感染症:11 月

性器クラミジア感染症	男性:23 件	女性:28 件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 3 件	女性:12 件
尖圭コンジローマ	男性: 9 件	女性: 6 件	淋菌感染症	男性:12 件	女性: 2 件

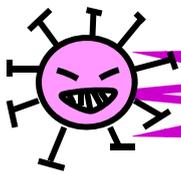
4 基幹定点週報:

	第 48 週	第 49 週	第 50 週	第 51 週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	1.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.75	0.25	1.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報:11 月

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2 件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1 件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0 件		

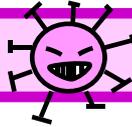
この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>



感染症に気をつけよう!

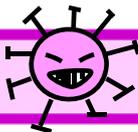
2018年【1月号】

横浜市内の感染症 流行状況

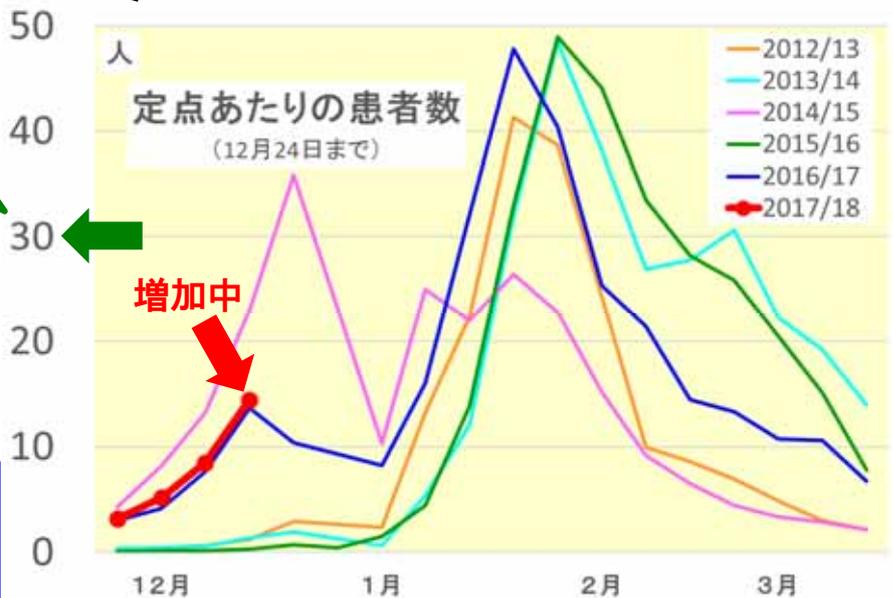


感染症	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
インフルエンザ	注意報	増加	12月下旬に定点あたりの患者数が10人を超えて、流行注意報が出されました。【'17.12号】
咽頭結膜熱 (プール熱)	やや流行	増加	例年のピークは夏ですが、2015年と同様に11月初めから増加しています。【'17.6号】【ちらし】
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	やや流行	増加	11月上旬頃から、増えて来ました。過去6年間で、最も多い状況が続いています。【'15.3号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



例年1月には30を上回り、流行警報が発令されています。



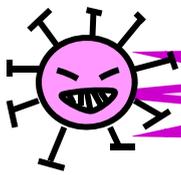
予防の基本は、正しい手洗いです。かかったかな!と思ったら、咳エチケットを守り早めに受診しましょう。



こんな症状は、重症化のサインです。すぐに受診してください。

呼びかけに答えない・呼吸が早く息苦しい・胸の痛みが続く・症状が長引き悪化

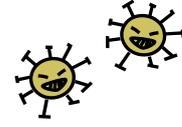
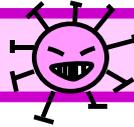




感染症に気をつけよう!

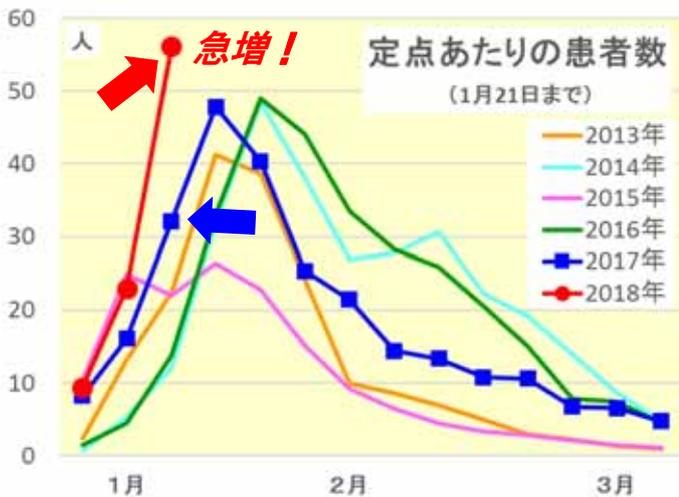
2018年【2月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症	流行状況		説明 【解説付き既刊号】
インフルエンザ	警報	増加	1月下旬に定点あたりの患者数が警報レベル30人を超え、流行警報が出されました。【'18.1号】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	やや流行	増加	11月上旬頃から、増えています。過去6年間で、この時期としては最も多いです。【'15.3号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



警報発令中!

- 昨年もこの時期に警報が発令されましたが、患者報告数は今年の方が、かなり上回っています。
- 小学校を中心に学級閉鎖が急激に増加し、高齢者施設や保育園での集団発生も続いています。

予防の基本!

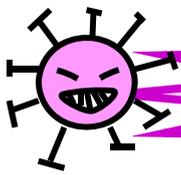
- 正しい手洗いが大切です。
- かかったかな!と思ったら、咳エチケットを守り早めに受診してください。

しっかり休養!

- 発症後3~7日間は、鼻やのどからウイルスを排出すると言われています。
- 学校等については、【症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は休むこと】とされています。かかりつけ医に相談しましょう。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】

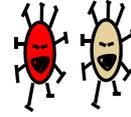
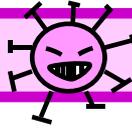




感染症に気をつけよう!

2018年【3月号】

横浜市内の感染症 流行状況

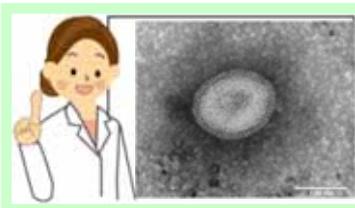


感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号】
インフルエンザ**	 警報	 減少	2月初めをピークに減少していますが、まだ患者数は多く、警報レベルが継続中です。【'18.2号】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎*	 やや流行	 横ばい	例年と比べて、報告数が多い状態が続いています。全国的にも同様の傾向です。【'15.3号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



参考ホームページ
 *:国立感染症研究所
 **:厚生労働省
 ***:文部科学省



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(6万倍)
 撮影:横浜市衛生研究所

2回かかる場合も!



- 例年、流行の初めはA型が多く、遅れてB型が流行しますが、今シーズンはB型の流行が早いです。
- そのため、一度、B型にかかった人がA型にも感染したり、A型とB型の両方に、同時にかかる可能性もあります。

子どもや高齢者は特に!

- インフルエンザによる入院では、10歳未満と70歳以上の報告が多いです。
- 特に子どもや高齢者では、脳症や肺炎など重症化に注意が必要です。
- また、高齢者施設での集団発生が続いています。

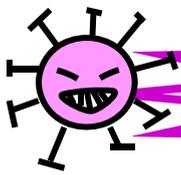


正しい手洗い・咳エチケット**を習慣に!

- かかったかな?と思ったら、早めに受診してください。
- 発症後3~7日間は、鼻やのどからウイルスが排出されると言われています。
- 他の人にうつさないためにも、無理をせず、学校や***仕事は休みましょう。



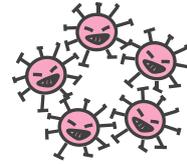
横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう!

2018年【4月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明 【解説付き既刊号】
インフルエンザ**	 流行	 減少	3月上旬に警報は解除されましたが、まだ、流行は継続しています。注意しましょう。【'18.3号】
A型肝炎*	 散発	 やや増加	ウイルスに汚染された食品等から感染しますが、 性的接触による報告 が増えています。【'14.4号】

今、気をつけたい感染症 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

流行の様子は・・・

- 去年の11月頃から増加傾向になり、いつもの年に比べて、**報告数が多い状態**が続いています。
- 例年の流行では、【冬】と【春から初夏にかけて】の2つのピークがみられるため、**これから注意が必要です。**



写真1. 典型的な莓舌 *

症状と治療は・・・

- 急な発熱・のどの痛み・全身倦怠(けんたい)感で始まり、しばしば嘔吐を伴います。**舌が赤くブツブツして、イチゴのようになる**ことがあります。
- 治療には抗生物質を使います。途中で服用を止めてしまうと、**リウマチ熱**や腎炎などの合併症を起こす場合があります。**薬は医師の指示通りに、最後まで飲み切ってください。**



予防のためには・・・

- この感染症の原因となる細菌【A群溶血性レンサ球菌】は、患者の**のどからの分泌物**等に含まれています。
- 予防には*患者との濃厚接触を避けることが最も重要です。うがい・手洗い**もしっかり行いましょう。



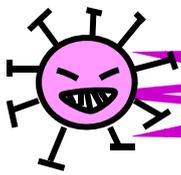
参考ホームページ

*: 国立
感染症研究所

** : 厚生労働省

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】

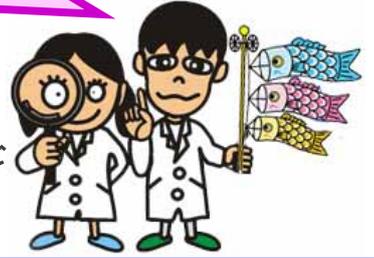
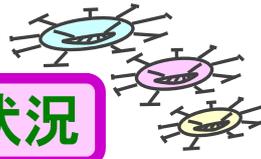
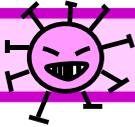




感染症に気をつけよう!

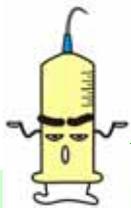
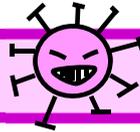
2018年【5月号】

横浜市内の感染症 流行状況

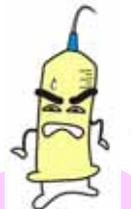
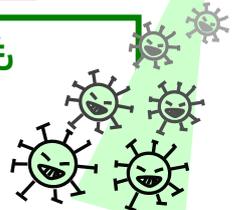


感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号】
A型肝炎*	★ 散発	➡ 横ばい	ウイルスに汚染された食品等から感染しますが、 性的接触による報告 が多い状態です。【'14.4号】
インフルエンザ**	★ 終息	➡ 減少	4月中旬に、患者報告数が定点あたり1人を下回って、 流行は終息 しています。【'17.12号】

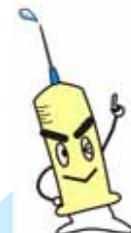
今、気をつけたい感染症 麻しん(はしか)



- **麻しんウイルス****は感染力が非常に強く、**空気を介してもうつるので**、手洗いやマスクだけでは予防できません。
- 麻しんの免疫が不十分な人が感染すると、**高い確率で発症**します。



- 症状は、**高い熱や全身の発しん・咳・鼻水・目の充血**などです。
- 肺炎や中耳炎になることがあり、**まれに重い脳炎**を発症することもあります。先進国であっても、1,000人に1人が死亡すると言われています。



- 予防には、**ワクチン接種**（一般的には**MRワクチン**）が最も有効です。十分な免疫をつけるためには、**2回の接種**が必要になります。
- 特に、麻しんの流行が報告されている国や地域***への旅行を予定している人は、**かかりつけ医に相談**しましょう。



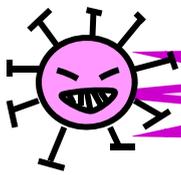
- 麻しんにかかった可能性がある場合は、**事前に医療機関へ連絡し、指示に従って受診**してください。



【参考ホームページ】*:国立感染症研究所 **:厚生労働省 ***:厚生労働省検疫所(FORTH)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

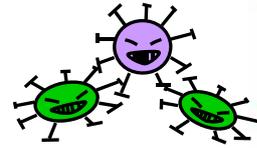
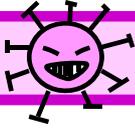




感染症に気をつけよう!

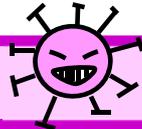
2018年【6月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
A型肝炎*	★ 散发	➡ 横ばい	ウイルスに汚染された食品等から感染しますが、 性的接触による報告が多い状態 です。【'14.4号】
咽頭結膜熱** (プール熱)	★ やや流行	➡ 増加	例年、7月頃にピークがあり、保育園や学校での集団発生も報告されます。【'17.6号】【チラシ】
伝染性紅斑** (リンゴ病)	★ やや流行	➡ 増加	昨年 <small>の</small> 11月中頃から増加の傾向になり、いつも <small>の</small> 年より 多い状態が続いています 。【'14.6号】
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎*	★ やや流行	➡ 増加	2017年からこれまで、例年に比べて、報告数が 多いままで推移しています 。【'18.4号】

今、気をつけたい感染症 咽頭結膜熱(プール熱)



どんな病気?

- アデノウイルスが原因です。主な症状は**発熱・のどの痛み・結膜炎**で、3~5日間ほど続きます。
- 免疫機能の弱い人・乳幼児・高齢者などでは、重症になる場合も*あります。

感染のしかたは?

- 患者の鼻水・だ液・便等にいるウイルスが、通常、飛沫感染あるいは手指を介した**接触感染***でうつります。
- プールでの接触やタオルの共用により感染することもあるので、プール熱とも呼ばれます。

予防には?

- **手洗い・うがい**が大切です。タオルは一人ずつ別にしてください。プールから上がった時は**シャワーを浴びて、うがい**をしましょう。
- 学校は、主な症状が消えた後2日間が過ぎるまで**、出席停止とされています。

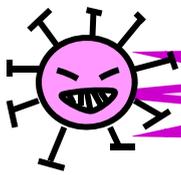


【参考ホームページ】

*: 国立感染症研究所

** : 厚生労働省 *** : 文部科学省

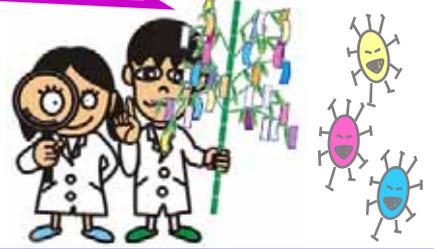
横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう!

2018年【7月号】

横浜市内の感染症流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
A型肝炎*	★ 散発	➡ 横ばい	ウイルスに汚染された食品、性的接触等によって感染します。報告が多い状態です。【'14.4号】
咽頭結膜熱** (プール熱)	★ 流行	➡ 横ばい	例年、7月頃にピークがあり、保育園や学校での集団発生も報告されます。【'18.6号】【チラシ】
RSウイルス 感染症**	★ 散発	➡ やや増加	2017年には、例年より早い流行がみられました。今年も注意する必要があります。【臨時情報】

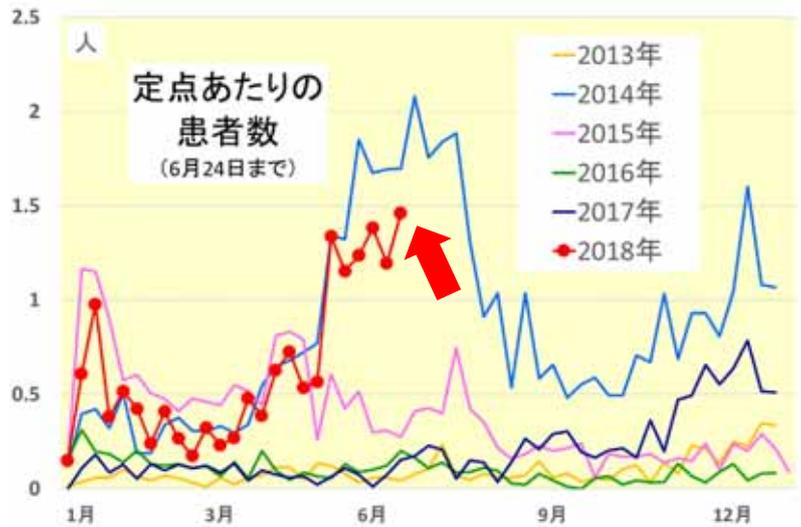
今、気をつけたい感染症



伝染性紅斑(リンゴ病)

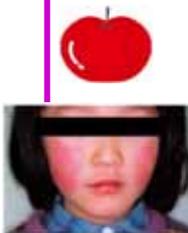
- ヒトパルボウイルスB19*が原因で、咳のしぶきや接触によって感染します。

- 市内では4~5歳を中心に、2014年以來の流行となっています。



- 軽いかぜ症状と、左右のほおにリンゴの様な赤い発疹**、続いて両方の腕・足にレースの様な赤い発疹が現れます。大人では、しばしば関節痛が出ます。

- 発疹が出てきた時期には、感染力は、ほぼ消えているといわれています。



ほおの発疹*

- 妊婦が感染すると、胎児水腫や流産を起こす可能性があります。

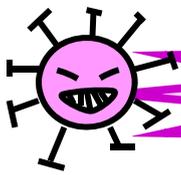
- 万一感染した場合には、医療機関に相談しましょう。



【参考ホームページ】

*:国立感染症研究所 **:厚生労働省

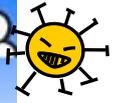
横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう!

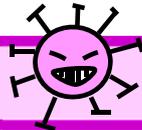
2018年【8月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
A型肝炎*	★ 散发	➡ 横ばい	ウイルスに汚染された食品等から感染しますが、 性的接触による報告が多い状態 です。【'14.4号】
RSウイルス感染症**	★ やや流行	➡ 増加	これまで冬に流行していましたが、今年は昨年と同様に 6月中旬から増加 しています。
ヘルパンギーナ**	★ やや流行	➡ 増加	夏かぜのひとつです。1歳から4歳くらいまでの子どもを中心に、 増加傾向 にあります。【'16.8号】
咽頭結膜熱** (プール熱)	★ 流行	➡ 横ばい	例年、 7月頃にピーク があり、保育園や学校での 集団発生 も報告されます。【'18.6号】【チラシ】

今、気をつけたい感染症 海外旅行の時は...



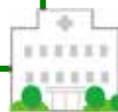
渡航前に...

- 国内ではほとんど発生しませんが、**海外では感染の危険性**が高い感染症がいろいろあります。
- 安全で楽しい旅をするために、このような感染症について、正しい知識**を身につけておくことが大切です。



予防接種を...

- ワクチンで予防できる感染症もあります。
- 出かける地域や期間等に応じて、**接種を検討****しましょう。



帰国後は...

- 入国時に健康上心配なことがある場合には、**空港や港の検疫所に必ず相談****してください。
- しばらくしてから具合が悪くなったなら、**事前に医療機関へ電話**し、**渡航先・滞在期間・飲食物・動物との接触**などを伝えてから、**すぐに受診**しましょう。



海外旅行...

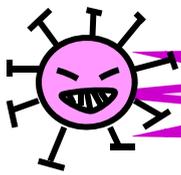


【参考ホームページ】

*:国立感染症研究所

：厚生労働省 *:検疫所 FORTH

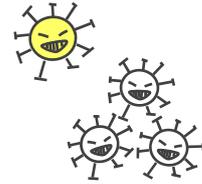
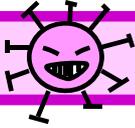
横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう!

2018年【9月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
風しん**	多発	急増	7月下旬頃から、首都圏で流行*しています。8月下旬以降、市内でも増えています。【'15.6号】
腸管出血性大腸菌感染症**	多発	増加	O157等が原因で、食中毒も報告されています。例年、初秋まで多いです。【'17.9号】【チラシ】
A型肝炎*	散発	横ばい	ウイルスに汚染された食品、性的接触などによって感染します。報告が多い状態です。【'14.4号】

今、気をつけたい感染症 風しん



どんな症状が出るの？

- 原因は風しんウイルスで、発熱・発疹・リンパ節のはれが特徴です。重い合併症が起きて、入院が必要になる場合もあります。
- 妊婦が感染すると、お腹の赤ちゃんにも感染して、心疾患・難聴・白内障を主な症状とする【先天性風しん症候群**】になる可能性があります。

予防のためには？

- ワクチンが有効です。子どもには定期予防接種(無料)があります。
- 19歳以上の市民には一定の条件の方に、横浜市風しん対策事業(予防接種と抗体検査)も実施されています。
- 妊娠中は接種できないので、パートナーがワクチンを受けることは、生まれてくる赤ちゃんを守ることになります。

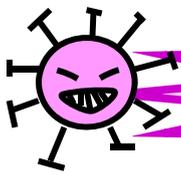
かかったかなと思ったら？

- 万一、風しんを疑う症状が出たら、必ず事前に医療機関へ電話してから、指示に従って受診しましょう。



【参考ホームページ】

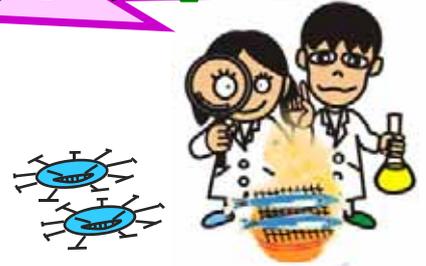
*:国立感染症研究所 **:厚生労働省 [横浜市衛生研究所](#) 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう!

2018年【10月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号】
風しん**	 多発	 増加	7月下旬から、全国で急増*しています。流行は首都圏から全国に拡大しつつあります。【'18.9号】
A型肝炎*	 散発	 横ばい	ウイルスに汚染された食品、性的接触などによって感染します。報告が多い状態です。【'14.4号】

今、気をつけたい感染症 風しん



市内でも8月下旬から41人の報告がありました。30代から40代の男性が多くなっています。

万一、風しんを疑う症状(発熱・発疹・リンパ節の腫れなど)が出たら、必ず事前に医療機関へ電話して、指示に従って受診しましょう。

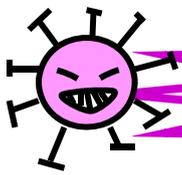
妊婦が感染すると、お腹の赤ちゃんにも感染して、心疾患・難聴・白内障を主な症状とする先天性風しん症候群**になる可能性があります。

予防にはワクチン**が有効です。生まれてくる赤ちゃんを守るためにも、予防接種を受けましょう。(妊娠中は受けられません。)横浜市風しん対策事業も実施されています。



【参考ホームページ】

*: 国立感染症研究所 **: 厚生労働省 [横浜市衛生研究所](#) 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう!

2018年【11月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号】
風しん**	 多発	 横ばい	患者のうち予防接種を受けたことがない、または、接種不明の人が9割以上です。【'18.10号】
伝染性紅斑** (リンゴ病)	 やや流行	 横ばい	2017年11月上旬から増加傾向になり、例年と比べて報告が多い状態が続いています。【'18.7号】

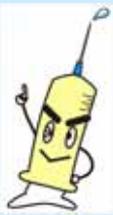
今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がります。例年、12月～3月が流行シーズンです。



普通の風邪とは違います。
38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感などの症状が、急に出るのが特徴です。
重症になる例もみられ、十分な注意が必要です。



インフルエンザワクチン**は感染後に発症する可能性を低くする効果と、発症した場合の重症化を防止する効果が報告されています。かかりつけ医に相談しましょう。

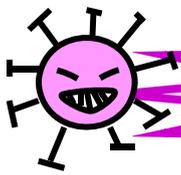


予防の基本は、正しい手洗いの習慣**です。
かかったかな?! と思ったら、
咳エチケット**を守り早目に受診してください。
重症化を防ぐため、また、他の人にうつさないためにも、無理をせず学校や仕事は休みましょう。



【参考ホームページ】

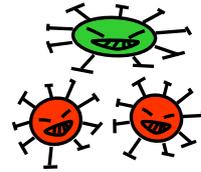
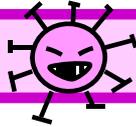
*:国立感染症研究所 **:厚生労働省 [横浜市衛生研究所](#) 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう!

2018年【12月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
風しん**	多発	横ばい	30~40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'18.10号】【風しん対策事業】
伝染性紅斑** (リンゴ病)	警報	増加	昨年11月から増加傾向になり、この時期では過去6年間で最も多く報告されています。【'18.7号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



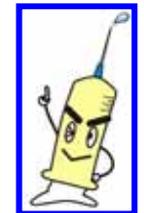
- 定点とは、毎週、患者数を報告していただく特定の医療機関のことです。
- そこから報告された患者数の平均が、**定点あたりの患者数**になります。
- この数値が「1」を超えて、**流行が始まりました**。



- 38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感などの症状が、急に出るのが特徴です。
- 重症になる例も**みられます。



- 予防の基本は、正しい手洗い**です。
- インフルエンザワクチン**には発症をある程度抑える効果や、重症化を防ぐ効果があるとされています。かかりつけ医に相談しましょう。
- かかったかな?!と思ったら、咳エチケット**を守り早目に受診してください。
- 重症化を防ぐため、また、他の人につさないためにも、無理をせず学校や仕事は休みましょう。



参考ホームページ *：国立感染症研究所 **：厚生労働省



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

横浜市感染症発生動向調査事業概要
平成 30 年(2018 年)

横浜市健康福祉局 衛生研究所 感染症・疫学情報課
令和元年 12 月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号
Tel 045(370)9237
Fax 045(370)8462

紙へリサイクル可